大正二年十二月二十日發行

婦人衛生雜誌

第二百八十九號

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌

第二百八十九號目次

講演

叢談

育兒

家庭衛生

雜錄

廣告

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衞生會

新年會通知

來大正三年一月十一日(第二日曜日)をトし午後一時より神田區一ツ橋通り共立女子職業學校内に於て來年第一回の例會を兼ね新年會相開候間會員諸姉の奮て御出席あらむことを冀望致候也

大正二年十二月

私立大日本婦人衞生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉會　告◉

●前金切れの方は此際何卒至急御送金下され候やう御願申上げ候

振替貯金口座東京一〇六〇〇番

●本月の本誌には各位の御便宜を謀り振替拂込用紙を添へ置申候

大正二年十二月

大日本婦人衞生會

講演

新らしき女の根本義に就て

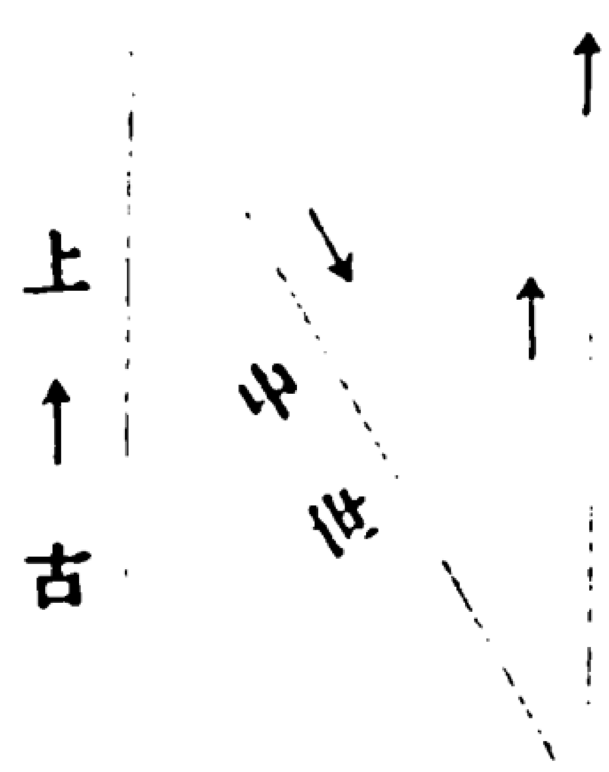
中島德藏

唯今此會で是から衛生と精神の修養とを結付けると云ふ御話がありましたが、元來道德とは卽ち精神の衛生であります、希臘の哲學者プレートが道德とは定義して精神の壯健と申して居ります。で私は身體の健康の方に就ては說を持たず精神の健康に就て此處に「新しい女」と云ふ題を出して置きましたが、新聞雜誌の上で唯今頻に申します所の其の「新らしい女」の行り方が精神の健全に適してあるか否かと云ふことを一つ根本的に研究して見たいと思ふが、私は能く今の新しい女の實際を承知して居る譯ではなく、唯書物の上から見た新しい女でありますから、豫め御承知を願ひます、デ其れに就て精しいことは迚も述べられませんから、其根本主張と、其れから引き出されると云はれてる事との間に一致しない點、空虛がある、其處を主として御話して見やうと思ふ。

で其新しい女は何を根柢として彼のやうな主張をして居るか……彼のやうなと申しても此のやうなと云ふ解釋を持たない方(女)がありませうが、新しい女は大外れた考を持て居る、新しい女は「是は高尚な腦力を害する」と云ふて、家事一切の煩累を厭ふてる、家の中に居て物を煮たり燒いたり、洗濯をするやうな女の仕事と云ふものは凡て人間高尚の活動を害するが故に之を厭ふ、爲ない、詰り賢妻良母と云ふことに就ては根本的改革を企てたいと云ふ考があ

るやうであります。それで何になるのだと云ふと男でも女でも共通に持て居る根本に這入る、上古の男でもない、女でもない根本…男とも女とも未だ分れぬ共通の根本へ這入つて、さうして高尙の生活をしたいと云ふのです。全く子供のウンコやシッコの仕末をするのは面倒臭い、さう云ふことを取扱ふのは價値の無い面倒なことだから嫌ふ、それなら其の心の奧底の眞直中の生活と云ふ者は何ふ云ふ者であるかと云ふと、其が禪宗が本になつて居るやうである、禪宗と云ふものは何んなものであるか、禪宗の坊樣でも此樣なものだと云ふことは言へない。口に言ふことが出來ないのが禪宗である、何んなものが此樣なものだ、と云つて了つては禪宗の趣旨に背く言語道斷と云ふやつである、此樣なものだと云へない、まあ是は言ふのが無理である、無理であるがそれでは話になりませぬ、其處を無理に、言へないと云ふものを言ふて見なければならぬ。

獨逸の有名な哲學者のヘーゲル（Hegel）と云ふ人がある、近世の大哲學者であります、其人が人間の進んで行く道筋を說いた形式があります、是は眞理であります。人間の進んで行く道と云ふ者は先づ初めに一方向に向つて一直線に進んで行くが其れから戻つて又た立て直して進んで行く、斯うも書けませう。



人間は汽車が進むやうに眞直な道を進んで行くものでない、必ず極端から極端に出て行くものである、そして漸々山道を辿つて上へ登らないやうに見へても次第に富士の頂上へ登れるが如く、人間も曲がりくねつて進んで行くけれども遂には終極に達するものである、其道筋は山道である、さう云ふ風にヘーゲルは說いて居る、世の中の進方と云ふものは凡てさうである。

人間の初は何うしても天眞爛漫である、上古は日本

でも支那でも歐羅巴でも、左様であつた、天眞爛漫と云ふのはお腹が空いたら、餓じいと云ふて物を食べる、咽喉が渇いたから水を飲む、寒くなつたから著物を厚く著る、暑くなれば著物を脱ぐ、人に褒められ度い、金を澤山持ちたい、命が長くあるやうにと願ふ是が天眞爛漫であります。そこで皆様方に若し今の此の窮屈な世の中に居て、「是は警察の例規に逆ふ」「イヤ其は法律に背く」などゝ八釜しきことを言はれないで、何でもしたい放題なことを勝手に氣儘にせよと云ふならば皆様方は何んな事をなさる、其の爲され方が卽ち天眞爛漫であるのであります、必ず皆様方はお腹が空いたら食べる、渇いたら飲む眼が覺めれば起る、睡ければ眠る、人には褒められるやうに、命は長くあるやうに、斯う云ふやうに行るに違ひない、此束縛せられずに人間天然自然の心持と云ふのを伸ばせるだけ伸ばすと云ふのがお腹が空いたら餓じい主義と云ふても宜く、上古卽ち希臘羅馬あたりは大體斯う云ふ風である、レッシング(獨逸の文豪)のラオコン像の評と云ふのが、それであつてラオコンの彫刻に依ると希臘では苦しい事があると大の男が泣いたもので、男が大きな口を開いて涙を流して居る、日本でも此天眞爛漫なる生活を述べて斯う歌つた人がある。

酒も飲みつ浮かれ女も見つ文も見つ
　家も興しつ世に恨なし

「酒も飲みつ」は未だ良いとして「浮かれ女も見つ」は少々恐入りましたが、勝手氣儘の生活をして仕放題な事を爲たから死ぬ時も恨みなし、行りたい放題の事を行つて心置なく世中に生活して、死ぬ時は是で良いと斯う云ふ積りで死ぬ、日本では萬葉時代あたりまで、支那に於ては道教が發達するまで位は斯う云ふ風な形で行つて來た。

ところがさう云ふ風に行りますと必ず其處に衝突が起つて來る、世に恨みなしと云ふやうに行つて行ける者は珍しく、稀である、必ず衝突が起る、そこで人類が此衝突を經驗して「どうも是ではにつちもさ

つちも行かぬ」と云ふので、天眞爛漫が行詰つて了つた、其は希臘、羅馬の終りであります、我儘で出來ないと云ふので是から戻つて來る、是ではいかぬ再び出直さなければならぬ、今迄の道は間違つた、戻れと云ふ號令が掛かつて來る、此の號令の掛手は誰であつたかと云へば、西洋では基督のやうな人であります、支那では老子のやうな人、印度のお釋迦樣のやうな方が出て今までの行方はいけないから戻れと云ふ號令を掛けて見た、其戻れの號令の行方と云ふものは今までの反對である、今まではお腹が空けば饑じいと云ふ主義であつたけれども、今度のはお腹が空いても饑じうないと云ふのであります。

希臘、羅馬では智慧があるのを偉らいとしましたが基督敎に依りますと却つて智慧があるから惡いと云ひます、丸きり反對であります、支那の老子と云ふ人の敎もそれでありまして、智慧があるから卽ち迷が生じていけないと云ふのである、元來樂みをしたいと云ふのが間違つて居る、樂みをしたいと云ふ心を取棄てゝ仕舞はなければならぬ、飲みたい食いたいのと云ふことを考へてはいけない、智者と言はれるな、褒められるな、寧ろ惡く言はれる方が良い何でも角でも人間の其天然自然の人情と云ふものを殺して仕舞へと云ふのが卽ち或意味に於て基督敎の敎でもあり、老子の敎でもあり、佛敎の敎であると云ふことが出來るのであります、禪宗の敎も詰り其系統に屬する、而して是は歷史で申ますと中世の敎であります、前の上古の天眞爛漫の反對であります人間天然自然の心持の逆に行くものである。

逆に人間の性質を考へるのであります、之を學問の言葉で申しますれば否定する、ネゲート(Negate)すると云ふのであります。

人間の心と云ふものは凡て之を言ふて見ますれば相對と云ふものに成立つて居る、吾々の心と云ふものが「是は何であるか」と云ふことを考ふることが出來るのは、甲と乙と相對して考へるからである、白があるから黑がある、男があるから女がある、善が

あるから惡があると云ふやうな工合に、何處から何處まで調べて參りましても相對と云ふことが附纏つて居るのであります、喜びあれば悲みありと云ふやうに吾々心の中の詰物と云ふものは相對律と云ふものに成立つて居るのであります、更に一つ具體的に例解すれば、美しいと云ふ物があるから醜いと云ふものがある、貴方がたは皆美人でお出になるが、併し必ずしも貴方たがが美人の美と云ふ性質を持つて居る譯ではない、貴方がた以下に醜い人があるから貴方がたを美しいと云ふことが出來るのであります日本に於ては醜婦であつても印度あたりへ行けば他の者が皆眞黒だから、日本の醜婦は彼方の小野小町になつて仕舞ふ譯である、誰れが見ても何物から見ても、此れは美人といふものはない、其の證據には女性の中で最も美しいと云はれて居る小野小町と云ふ者が、鶯や目白或は頰白などが囀つて居る春の野邊に出掛けて行き、鶯の傍に接近したならば彼等は飛んだ者が來たと思つて逃げ去つて仕舞ふ、小野小町と云ふ者が美しい者であるならば、頰白が見ても鶯が見ても美しくなければならぬ、然るに小野小町が行つても鶯、頰白が逃げるといふのは、彼れ等には小野小町が幽靈にでも見へるからであらう、小野小町は決して美人ではない、唯其者を他の者と較ぶればこそ美人と云へるのである、下女おさんと雖も其較べられるもの次第では美人となる、即ち相對：：相對して見るからであります、故に物に美しいと云ふ性質があるのではない、さう云ふ論法で行きますと、人間の心の中に在る凡てのものも皆さうである、人間の心に起つて來ます、色々の心持、金が欲しいとか、權力が得たいとか、或は快樂を貪りたいとか云ふことでありましても、相對的に物を考へるから起ることである、凡て人間の心に在る相對と云ふものをなくして仕舞ふ、相對と云ふものを亡ぼして仕舞つた先には何があるかと云ふと絕對と云ふものがあります、「絕」と云ふ字は「無クス」と云ふ字であります、相對を無くすと云ふ意味である、故に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「無」が絶對である、其の絶對と云ふものが即ち世事に囚はれ迷つて居る人間の普通考へない所の最も眞なる境界であります、此の絶對の境地に到れば腹が空いても餓じうない、吾々の眼から起つて來る慾、耳から起つて來る慾、さう云ふものを悉く無くす必要がある、之を無慾の生活と云ふ、上古は有慾の生活であつたけれども中古は無慾の生活である、慾と云ふ字は兩方にありますから取つて仕舞ひます、物の有るやうに見えるのは即ち迷の生活で、無いと云ふのが本當であると云ふので、此の「無」と云ふことが眞正な意味を持て來る、「無」と云ふのは即ち絶對のことを云ふのであります、

無名天地之初

有名萬物之母

是は老子の一番初の章の大切な文句であります、天地の初は無名なものである、何とも彼とも言へない形容することの出來ないと云ふもので、即ち此無と云ふものが天地萬物の起る本である、だから天地萬物の最も初め云ふて見れば無である、斯う云ふ意味であります。

「有名は萬物の母」是は有を云つたものであります、「是は美である」「醜である」「是は眞理である」「健康である」「病氣である」「サウ云ふ風に名前を附けることの出來る所のものは色々のもの色々の迷の出來る本である、男女の區別も本は迷である。

禪宗と云ふものは兎に角此の無を說く、此の無を悟らせる敎であるらしい、三分五厘で火面を張つてヤレ一錢儲けた、二錢儲けた、一圓金が溜つたと云ふやうなことを考へ、考を鎭めて深呼吸のやうなことを行つて、心に起つて來る考を鎭めて無念無想になつて居ると人間の眞味と云ふものが初めて分る、此事は却々六かしい、お腹が空いて餓じいと云ふのでなく、之を強いて云ふならば、お腹が空いても餓じうないと云ふ先代萩の千松の言ふたやうなものであります、之を俳句に作つたのが即ち芭蕉の

枯枝に烏とまりけり秋の暮

でありませう、「枯枝に烏止まりけり秋の暮」と云ふ句の意味は、私も俳句の宗匠でないから我流の解釋でありますけれども、餘り當てにはなりませぬが、一體春は百花爛漫と咲匂つて居るところの野原といふ景色でなく、却つて枯枝と云ふ、鴉であるとか孔雀のやうなものは見て綺麗な陽氣な晴々しい鳥であるが見て綺麗でない烏を出し、春の時候夏の時候に非ずして秋の季を云ふ、秋であつても晝の中、朝の間であつたならばまだ生氣活氣があるのに暮と云ふ‥‥秋の夕暮は戸外へ出て見ると云ふと寂然として自然に心沈み後ろ髮引かるゝやうな氣持になる、其は皆生々とした人間の心持と云ふものを無くした心を思はせる爲に「枯枝に烏とまりけり秋の暮」と云ふたのでありませう。

「櫻の枝に鶯止まりけり春の朝」と云ふたならば、是は此裏であります、日本でも萬葉以來の心持であります。何でも人間の心に考へられるやうな心持を凡て殺して仕舞ふので、「無」の一字、人の心に思起させる爲に芭蕉が十七文字を以て歌つた、出來るならば、一字「無」で濟ませたかも知れないが、「無」の一字では何のことか分らないから恰度此の老子「無名」の「無」と云ふ教を見せやうとしたのである、禪宗と云ふものは大體斯う云ふものであるらしい。

一休和尚の歌に

闇の夜に啼かぬ烏の聲聞けは
　生まれぬ先の親ぞ戀しき

闇の夜には何も見へない、天狗に鼻を摘まれてもまだ分らない、啼かぬ烏の聲が聞けやう筈がない、「闇の夜に啼かぬ烏の聲聞けば」生まれない先の親があるべき筈がない、生まれぬ先の親の戀しい譯がない暗闇に物が見へて啼かぬ烏の聲が聞へて、生れぬ先の親が分ると云ふ人でなければ人間のことが話が出來ない、是は禪宗坊樣の言ふことであります。

又斯う云ふのがある。

三伏閉門被一衲
兼無松竹蔭房廊

安禪不必須山水
滅却心頭火自涼
杜荀鶴

寺と云ふものには多く竹や松が植ゑてあつて色々樹木茂り日覆が出來て居る筈のものでありますが、此寺には植木は竹も松もなく、而も夏の最中土用の日にカン〳〵照らされて居る、是は杜荀鶴と云ふ人が其有樣を形容して云つたものであります、又門を開放てある、門を閉じて日の當らぬ涼しい所で晝寢でもして居るならば寺でも涼しうございます「安禪不必須山水、滅却心頭火自涼」山がある爲に水がある、爲に禪が出來ると云ふのでない、山や水に關係はない、今は土用中である、今身體に日が當つて居ると云ふことを考へるから暑い、さう云ふことを忘れて世の中の萬般に事皆相對のことを忘れて仕舞へば火も自ら涼しい、涼しい暑い寒いと云ふことがない、是は重要な詩であります、殊に「安禪不必須山水、滅却心頭火自涼」の二句は著名であります、甲州の武田信玄が非常に歸依して居た、或禪宗の寺の坊樣に快川と云ふ人があります、武田家の晩年のことであります、武田勢が織田信長に攻められて亡びる時に數十人の武田勢の落武者が此寺に來て匿まつて呉れと云ふて賴んだ、快川老師之を承知して匿まつて遣つた、續いて織田信長の兵が此寺に確に武田勢が匿れて居るに違ひない出せと云ふので快川を捕へて詰問したけれども快川遂に出さない、其處は禪宗坊主だから一旦承知して匿したからにはなか〳〵出さない、信長勢大に怒つて寺を圍み快川初め坊主を一人殘らず捕へて山門へ追ひ遣り下から火を放つた、隨分酷いことを行つたものである山門とは恰度雷門の先に大きな提燈が下がつて居る、門がある、彼のやうな門であります、其門へ快川初め皆々の僧侶を追ひ上げて下から火を放つ、老師は皆の者は此期に及んで一語無かるべからずと云ふたので銘々が所感を述べたが此時に快川和尚は……安禪必ずしも山水を須ひず、心頭を滅却

すれば火も自ら涼しと云ふ句を述べたのであります禪學の悟ふを開けば火の中で死ぬのも苦しくない、心を鎮めて仕舞うと如何なる變事が起つても何でもない、泰然自若たることが出來るのであります。

「新らしい女」禪學令孃の色々の考の由て來る根本義は此所にあるらしい、詰り之を道德の言葉に飜譯して申しますと云ふと此の無と云ふことは克己心と云ふことゝ同じであります、克己心とは己を無くすと云ふことであります、克己と云ふ字を一字にすれば無と云ふ字である、我儘の心を無くして見、そこに眞の人間の味があると云ふのが無であります、何でも人が聞きたい、飲みたいと云ふやうな工合に欲をさらけ出すやうでは人間の眞味は分らない、食べたい時に食べたい物も食べないで居る、威張りたい時に威張らないで居つて何も彼も慾を抑ゆる所に、其處に人間の眞味がある、お腹が空いても饑じうないと云ふ所に眞の人間らしい所の味ひが出て來る斯う云ふことは禪宗ばかりでない、道德でも言ひます、此點は私共贊成であります、非常に強い、非常に高尚な所がある、が併し禪宗の坊樣に能く野狐禪と云ふものがある、此れは出來損いの悟りを云ふたのでありまして、斯う云ふ風に悟るのも善し惡しである、常識に外れたことを行り出すやうな人間が能く出來る、よく人を罵り、世間に構はなくなり、人情に構はないで、妙に自ら高く構へて夫婦の間と云ふやうなものでも人情交際と云ふやうなものでも一切構はない隨分如何はしい事を行つたり、善良なる風俗を害することを平氣で行る、人の前へ眞裸體の儘で出る、他人の前で普通の善良なる風俗に逆つたことを平氣でする、虱の寄生つたボロ〳〵の襤褸著物を著て人の前に出る、又乞食を平氣で行る、人が自分の生れた村だけへは來て呉れるなと言ふのに態々自分の隣家の家へ來て、「何うか一文御奉捨」などゝ云ふことを行る、如何はしい事を平氣で行るのを悟つた人の遣り方と思つて居る、それから禪學婆樣と云ふやうなのもありますが其の中には隨分思ひ

切つた俗離れのしたことを斷行したものもありますが申上げ惡い。

それから世間を馬鹿にして掛かるやうな茶人風流人も之れに因んで居る、非常に眞面目に考へなければならぬ事件を面白可笑しいものゝやうに考へる、一例を擧れば死と云ふ人間の大事件を馬鹿にして考へて居る巫山戯た考を持つて居る、斯う云ふ考の出來て來たのは「無」と云ふことに根柢を以つて居るので禪的の思想から來て居ることは疑ひない。

一休の歌に

　世の中は食うて糞して寢て起きて
　　偖其後は死ぬるばかりぞ

其の外の人の歌にも

　來て見ても來て見ても皆同じこと
　　こゝらで一寸死んで見やうか

人間は世の中で何時までも矢張り同じやうな事を行つて居るのですから此處らで一ッ死んで見やうかなどゝ斯んな樣な風に死と云ふことを不眞面目に取扱つて居る、隨分馬鹿にして居る、此樣な風に死と云ふものを取扱ふやうになつて來るのも矢張り同一の徑路から來る。

　此の世をばどりやお暇と線香の
　　烟と共にはい左樣なら

　今迄は人のことだと思つたに
　　俺が死ぬとは此奴はたまらぬ

「俺が死ぬとはこいつはたまらぬ」と云ふて居るけれども此樣な人は死ぬことは何とも思つて居ない。

　身代を遣つて死ぬると思ふなよ
　　貰うた人も亦置いて行く

　往生を願はせねど是非なくば
　　八十八を過してのこと

　冥土から迎ひの鬼が來たならば
　　九十九まては留守と答へよ

　留守と云へは又もや使來るへし
　　イツソいやたと云ひ切つてやれ

此「無」と云ふことの悟りから這入つて此の世の中及世界と云ふものは畢竟は「無」のものであると感ずる

瞬間の考は斯う云ふ風に變つて來る、面白可笑しく唯世の中の變化と云ふものは何等意味なきものゝやうに考へられて來る、世間を愚弄して、そして死ぬまでの間の仕事と云ふものは遊戯、遊び事になつて仕舞ふ、斯う云ふ悟りを開いた「無」と云ふものは空虚である、世の中を遊ぶと心得て居る、眞面目な熱烈な信仰を以つて事業を行るものではなく、世の中は遊び場所であると心得て居る。

禪宗坊主の仕事と云ふものは問答をするのが一つであるが、問答と云ふものは智を戰はす討論のやうなものであるのに、面白ずくで行る、それから詩を作り歌を詠んだり字を書いたり、畫を描いたりすると云ふのも禪宗坊主の仕事であります、其の他慈善事業を行つたりするものが近頃ありますけれども、今までの禪宗坊主にはさう云ふことは割合に少ない、どつちかと云ふと此の遊びの方が多く此の世界と云ふものを丸きり遊びの道具と心得るやうになつて來るのが多くあります。消極的關係の外社會に對して積極的交渉が付かない、其れは一の弊とも云へる、尤も禪宗でありましても白隱禪師と云ふ人の本を讀んで見ると私共の考へて居ることゝ餘程良く一致して居るものが多うございます、禪宗には斯う云ふ傾きを持て居ることは確であるが、眞の想想を云つたならばさう云ふものでないだらうと思ふのであります。

そこで道徳の方から申しましても宗教の方から申しましても、凡て此の情と云ふものを打消して其れを無くなして仕舞つたと云ふやうなことに價値がある譯でなく、禪宗の方から云つても宗教の極致はさうでなく、道徳でも克己心が最上でなく、己を無くしてそれで良いと云ふことはないけれどもそこに人間の力を養ふ利益は大變にあるのであります。

以上は中世期時代、之を日本の歴史に就て云つて見まするど日本の武士道がさうである、實行の上に就て誰が之を養つて居るかと云へば、乃木將軍の例がある、乃木將軍と云ふ人は「無」主義である、人間の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

天然自然の人情と云ふものは少しも伸びさせない、我が君、我が國と云ふやうな風に自分と云ふことが丸きりない、「無」と云ふのが乃木將軍の骨髓であると申しても宜いと考へます、乃木將軍ばかりでなく義太夫に現はれて居るところの理想は皆「無」である己と云ふものゝ一念を立てないと云ふこと、寧ろ己を殺すと云ふ所に人間らしい所がある、其義太夫に色々書いてある、壺坂でありましても、三勝半七、先代萩等多く武士道の精神と云ふものが其處に在る天眞爛漫のお孃さんは可愛いが危險でもある、「無」に入り込なければならぬが無を通り過ぎれば又「有」となる、人に譬へて申して見ますると、ゆつたりして育つたところの大家の一人娘が、調子付いて我儘な生活を行る一頓挫する、さうすると精神が簡單なだけ初心なだけそれだけ極端に走りやうが早い、斯う云ふことになつた以上は生きて居られないと云ふので、隅田川に飛込むの死ぬの、生きるの尼になるのと云ふ騷動が始まつて來る、極端に我儘娘が我儘勝手しほうだいのことをすれば一倍の力を以て元へ逆戻りする、が尼になり切つて仕舞つて人間の情慾と云ふものを殺して見ると生きる場所がある、壺坂のお里と澤市が死んで仕舞ふと觀音樣が助けて吳れる、己が死んで仕舞つて見ると死中に活がある。今度は昔と違うて十分に克己力を持つて先へ理想を持て進んで行く、詰り中世期時代と上古とを併せた我儘娘が尼樣になつて又改心したところの力を以て社會、國、他人の爲に貢獻する、其の一面から見ると中世の力と、一面から云ふと上古の力を持つて此の二つを兼ねて進む、少し位の故障があつた所で、それで止まりはしない、非常な勇猛心を以つて何等かの爲に人間らしい心の爲に奮鬪をすると云ふことであります、それは何かと云ひまするとご同樣此の世の中に出て參りましたのは何か爲に出て來たのである、社會の爲國家の爲に貢獻する、或は人類の爲に貢獻するとか何とか、一つ母親が子供の爲に犧牲になり、或は男が國の爲に犧牲になると云ふやうに何

等かの爲に力を働かせなければならぬ、又斯う見るのが普通であります、其故に偉大なる目的を達する爲に少し我儘の心を犧牲にする、母親の子供に對する感情と云ふものは卽ち虛無の精神、母親が子供に向つては殆んど絕對の精神がある、子供の爲に犧牲になつて、そして子供の犧牲になると云ふことが實に自分の快樂幸福になる、是は誠に不思議な力である、己が犧牲になつて居りながら犧牲になることが愉快である、是は迚も我儘娘の味ふことの出來ない我儘な母親の味ふことの出來ない一向子供の爲に骨を折らぬ母親に於ては經驗することの出來ない、己を人間の生活の眞直中に沈めて居る。それが母の心の精髓である、佛蘭西の有名なる哲學者、近頃流行者になつて居る、ベルグソン(Bergson)と云ふ人があります、其のベルグソンの言葉の中に此の世の中に於て最も不思議なる最も尊い心は母親の子に對する精神であると言つて居ります、是は必ずしも(ベルグソン)を俟たずして御同樣見ることの出來る不思議な力であります、母親が子供の爲に盡す所のものは勇と云つても可い、武士が戰場に向つて現はす所の勇氣、禪宗の坊樣が火が熱くないと云ふ勇氣、中世紀時代の美德を現はすことが出來る、子供の爲に犧牲になる此の美しい心持を推廣めて參りましたならば、隣家の貧乏の子供の爲に犧牲になるのも愉快でなければならぬ、日本の爲に犧牲になるのが愉快であるならば、社會人類の爲に犧牲になるのは愉快でないと云ふのは眼界が狹いのである、我國民の爲に熱き淚を流すことが出來るが、人類の爲に熱き淚を注げないと云ふのは未だ修養が足りないのであると云ふことが出來る、或はもつと押廣めて言ふたならば、人類社會の爲に、我は犧牲になり文明を進むる爲に貢獻し得るならば、犧牲になることが確かに愉快である、斯う云ふ精神を私は母親が子に對する精神を擴げて考へることが出來ると思ふ、我は唯犬死する爲に虛無になり絕對になると云ふのでなく、大きな理想の爲に進んで行く、其の爲に禪宗坊主の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

やうな力‥‥母親のやうな力を持ちたい其處に眞理がある。

ベルグソンが言ふのも、新しい女、禪學的、武士道的釋迦、老子、孔子、何處へ向ふべきかと申しますれば、矢張り同じ譯である、古き女はいけない、古き道はいけないと申します、成る程其の形態には大に改良する必要のあるものもありますが、其の精神は何處迄も何時迄も取らなければならぬ、而して二十世紀では此の精神を取つて更に之れを發展させる此れが理想的の眞の新らしい女と思ふ、其れは社會國家の爲になることを考へて、此の小なる五十年經てば朽ちて仕舞ふやうな己の爲にすると云ふやうな下劣な考を棄てゝ直に高尙なる目的に向つて貢獻しやうと何でも新しい道を採つて進んで行く、がさう云ふ目的なしに唯其の表面は高尙であるとしてもそれは口前で、そして實際に於ては五色の酒を飮み、不倫の關係を結ぶ、我儘になる、善良の風俗を害すると云ふ方にばかり向ふと云ふことは野狐禪である野狐禪でなしに眞面目な理想を以つて行かぬならば新しい女は全く僞物である、僞物と眞物とを見分ける標準は何處にあるか、色々ありませうが、少くとも新らしい女は其の現はれる事柄は異ふにしても、中世の武士道的精神、卽ち古き女の持つて居る美德は有つて居なければならぬ筈である、差向き之れを目標にして見ることが出來る、若しそれがありませぬならば縱令理窟はどうあつても野蠻人に墮落して仕舞ふ、人間と云ふものは恐しい者でありまして、我儘の出來るやうな位置になると墮落する。羅馬の衰亡は新しい女の爲である、羅馬に富が出來て繁昌して來た時に、女が子供を育てるのを厭ふやうになつた、家庭に居て物を煮たり燒いたり洗濯するのは面倒であると云ふ、段々外へ出掛けて行く、女だてらに酒を飮み、湯家に這入る、羅馬には立派な浴場がありました、交際社會に飛出して內を外にして仕舞ふ、子供を育てないで我儘勝手なことばかりして家庭生活と云ふものが亂れて、夫を換へることを何

とも思はない、毎年毎年夫を換へる、羅馬のセチカ(Seneka)と云ふ有名な學者が斯う云ふことを言ふて居る、彼等は再び結婚せんが爲に離婚し、離婚せんが爲に又結婚する」當時婦人の年齢を數ふるに生れてから經た年月を數へずして其の持つた夫の數に依つて年齢を數へたと云ふ程、隨分酷く墮落して仕舞つた、女が財産を持つてそして我儘放題のことを行れると、子供を育てることが面倒になつて、家庭の生活夫婦の關係と云ふものが亂れて、子供が無くなりますから遂に漸く羅馬の最初の美風は衰へた、羅馬は斯樣にして亡びて仕舞つた、北方の野蠻人に取られて仕舞つた、羅馬は名前だけで内容は野蠻人に奪はれて仕舞つた、其本はと云ふと女が家に居て家事一切の煩累を厭ふやうになつた所から來て居る。新しい女の一言一行と云ふものは微々たるものでありますけれども、是れ容易ならぬ關係‥‥重大なる關係を持つて居る、亞米利加には金持が澤山ありまして近頃は羅馬のやうな我儘放題なことを行る新しい女があります。さう云ふのはどうしても退治なければならぬ、日本のも同じやうであります、貴方がたは健全なる意味の新しい女とお成り下さることを私は希望する、貴女方のやうな若い方々でありましたならば自分の意思力を強くする爲には何うしても己を支配して餘りあるやうな力を蓄へ、克己の修養をなさると云ふことは貴女方の先に伸びる爲に必要であります。

近世に於て最も我儘の隊長――我儘道德の隊長たるところの獨逸のニイチエさへも斯う云ふことを言つて居る。

己れ自らを支配する者は世界を支配する

己れ自らを支配し得る者は社會を支配することが出來動かすことが出來ませうか、天下を動かし世の中を支配しやうと云ふ、それ程の抱負を持つて居る人であつたならば、己れ自らを支配する克己力と云ふものを持たなければならぬ、ニイチエは我儘主義の人であつたけれども近代の大哲學者たることを失は

ぬのであります。修養と致しましても極くまだ若い方達でありましたならば、此のニイチエのやうな格言を以て己を取締り、此修養が出來ますれば、今度は活眼を開いて世の中の爲に何ぞ貢獻し得るやうなことを行つたならば飛行機に乘つても或は女巡査になり電車の車掌になりましても……英吉利には女の兵隊が出來ました……タイプライターの係(タイピスト)でも女子判任官でも郵便脚夫でもよろしい、兎に角其の道行く經路と云ふものは「無」の關門を通らなければならぬ、健全なる正しき新しい女たるの修養としては武士道的修養をお積みになることを希望致します、所謂「新らしい女」のコケ威しに迷はされないことを御注意致します、餘り長くなりますから此位にして置きます。

叢談

婦人衛生上の危機

世中が開けて來る、進むで來る、一方には生活が一般にせゝこましく所謂せちがらくなつて參りまして女子とても家庭の人たることがむづかしくなり、自ら外に出て活くる工夫をしなければならぬやうな時代となる、現に我邦に於ても斯樣な狀勢になつて來て居るのであります。かうなりますと、これに伴ふて種々の弊害が種々の方面に現はれて來る、而かもそれが人の氣づかぬ意外の邊までも害毒を及ぼし遂に恢復すべからざる國家の禍ともならむとする勢を示して來るものであります。東京醫科大學衛生學敎室の石原醫學士は、去る十月の國家醫學會例會席上に於て「女工と結核」と云ふ題で講演をされました

が、そのお話に依て見ますと、實に寒心に堪へざる事實がある、女工と云へば貴婦人、令孃方には甚だ縁の遠い人々の如くに考へらるゝかも知れませんが正しく日本の女子の一部、而かも有爲なる一部分の女子であります、此等の人々の運命は又た日本の女子の運命をトするに足るのである、而して今その衞生狀態のみに就て觀るも實に憂ふべきものがある、

私はこれを以て婦人衞生上の危機、否、日本人種衞生上の危機と叫ばむとするのであります。依て玆に石原學士の講演の要點を摘錄して廣く婦人衞生會會員諸姉の參考に供し度いと思ふのであります。

日本の工業と云ひますれば鐵工業と纖維工業の外には殆ど工業らしいものが無いと云つても差支がないかと思ひますが、鐵工業に從事して居るものは男ばかりで、女は殆ど無く、纖維工業は皆女ばかりであると云ふて宜しい位であります。

●●●女工の數　女工の數は何の位あるかと申しますと、官立工場の中で大藏省所管の工場に働いてゐる女工が約二萬二千ございます、これは煙草專賣局の工場に居るものでありまして、其他のものは至て少數に過ぎません。次に私立工場の女工はと申しますと約五十萬人ございます、日本全體の職工の數は八十四萬、その內私立工場だけの人數でも八十萬ありまして、內三十萬は男で、約五十萬は女と云ふ割合になつて居ります。これに由て觀れば我邦の工業の盛衰は女の手に握られて居ると云ふても過言ではなからうと思ひます。

●●●●女工の年齡　五十萬の女工に就てその年齡の關係を見ますと、二十歲未滿は三十萬で、二十歲以上は二十萬であります、二十歲以上と云ふても大部分は二十歲乃至二十五歲未滿のものであります。尙ほ二十歲未滿と云ふ中には十二歲位のものまでも含まれて居ります。兎に角日本の官立私立を問はず勞働者全體九十萬の三分の一卽ち三十萬人と云ふものは未だ十分に發育を遂げない二十歲未滿の女工から成立つて居るのであります。西洋では二十歲未滿は補助職

工たるに過ぎないが日本では二十歲未滿の方が主要なものになつて居るのであります。

女工の職工別　五十萬の內四十萬は纖維工場に從事してゐるもので他の十萬だけが其他の業に從事して居る、その四十萬の內で生絲に從事して居るものが十九萬、紡績に從事して居るものが八萬、織物に從事して居るものが十三萬といふやうになつて居ります。衞生上から見れば、この三つの工業は兄弟の如く相似たる特別の關係を有つて居るものである。

寄宿と通勤　女工は工場に寄宿してゐるものと通ふものとありまして、その割合は何んなものかと言ひますと、七割は寄宿して居ります。これは何う云ふ譯かと申しますと、西洋あたりでは一體工場を建てるのには其處の村の者を目的として立てまして、村の者を職工に傭ふのでありますが、日本ではこれと正反對で遠い地方から若い女子を連れて來て、それを寄宿舍の內に入れて使役するのである、而して寄宿舍に入れて置けば監督に便である、惡く云へば拘禁して、束縛して使ふに都合がよい、斯う云ふやうな點から大部分は寄宿せしめられて居るのであります。而して寄宿をしてゐる者は大抵夫の無いもの從て年の若い二十歲未滿のものであります、これ等の事が又結核問題とは密接の關係を有つて來るのであります。

女工の勞働狀態　生絲工場に働いてゐる者は一日十三時間乃至十五時間も働かせられる、織物はどうかと云へば十二時間と云ふ所もございますが、大抵十四時間乃至十六時間は働かなければならぬ。斯樣に十四乃至十六時間も働くものと致しますと、殘の九時間か十時間の內でお湯にも入らなければならず髮も結はなければならず隨分忙しいものであらうと思はれます。斯樣な狀態で以て未だ十分に體の發育しない少女の女工が果して能く身體を休養することが出來るでありませうか、頗る疑はしいことであります。實際どの位働くものかと云ふことは食事の時間に就て見れば分かることゝ思ひます。通常食事後

の休憩時間は二十分乃至三十分と云ふことでありますが、その三十分と云ふのは最長限のことで、女工自ら食事時間を縮めて働くことは勝手である。若し三十分も緩る〳〵休憩してゐやうものなら監督者に睨られる、之に反して少しの餘裕もなく働けば監督者の目付きが善い、誰しも監督者の眼付きの穩和ならんことを望みますから、落ついて食事もして居れぬと云ふ狀態で、中にはお握を傍に置いて食べながら絲を紡ぎ或は布を織つて居ると云ふやうなものもあるさうであります。それから生絲や織物の工場は立派な所も稀にはないではないが、大抵は薄暗い工場で而かも水蒸氣が濛々と立てゐる。斯の如き處に於て、十分發育もしない少女が前述の如き時間中殆ど續けざまに勞働作業をして、これで以て人間の健康が保たれて行くと云ふのは不思議な話であります。實際彼等女工の體格を調べて見ますると一般に惡い、殊に二十歲未滿の者の體格が目立つて惡るい、而して長く仕事をやつて居れば、それだけ體格が惡くなる。十七歲の者の體格を見るに、十六歲で工場に這入つた者よりも十五歲で這入つた者の方が惡く、十四歲で這入つた者は一層體格が劣つて居ります。これ等は全く不良の衞生狀態、殊に勞働の過激と云ふことが原因になつて居るのであるまいかと考へられるのであります。

次に紡績工場の狀態に就て申しますと、勞働時間は十二時間で、特別の事情がなければそれ以上は働かせませぬ、又休憩時間も晝飯の時に三十分午後には二十分といふやうに嚴格に定まつてゐる、と云ふのはつまり紡績は西洋から輸入された工業で悉く機械を應用して居りますので、銘々が勝手に働かうとしてもさうは行かぬからのことであります。この點は生絲や織物などゝは違つて居ります、偖て工場の模樣はと申しますと、第一流のものは別として、第二流、第三流の工場となりますと、前の生絲、織物工場と別に異なる所はないのであります、矢張薄暗い、時としては非常に蒸し熱い工場でありまして、殊に

紡績工場は一般に纖維性の塵埃の多い工場であります。

●●●●連續徹夜業　紡績で特に注目すべきことは連續徹夜業と云ふことでございます。女工は夜晝かけてのべつに働かせるのではありませんが、機械の方は一休みなく日一杯働かせるのであります、そのやり方を申しますれば職工を二組に別けて居る、卽ち甲の組が晝間午前六時より午後六時まで働き、乙の組が夜間の午後六時より翌朝午前六時まで働くといふやうに大抵はなつて居るやうであります、而して甲組と乙組との交替は午前六時と午後六時であります。この二つの組の入れ換はりは大概七日か八日でやつて居るのが通常であるやうであります。夜業禁止といふ問題は社會で騷ぎ出しつゝある大問題でありますが、この夜業に十二三歳の少女を澤山使つて居るのであります、まだ慾も得も無い所の小娘に睡い眼をこすらせながら日暮から曉方まで働かせる、電燈の眩ゆい下に朝までぶつ通しに働かせるといふのは、これは人道問題ではないかと思ひます。一體夜間の仕事がどれ位身體に影響を及ぼすかと云ふことに就て石原學士が調べた所に據りますると、その一例として紡績工女八十一名に就て一人平均夜業後に體重の減ずる量と、同晝業中にその減量の恢復される目方と、それから恢復されざる目方との表がありまするが、それで見まするとゝ、一人平均夜業後の體重減量は百七十匁である、それが次の晝間に恢復するのはどの位かといへば六十九匁で、恢復の出來ない分は百〇一匁である。斯樣な風で未だ身體の消耗が恢復しない中に直ぐ又夜業に取掛ると云ふことになりますから交替期まで七日なり八日なり夜業を繼けて居れば百匁以上の體重を奪はれて仕舞ふのであります、これから推して考へますと、いつまでも夜業を繼けて行つたならば遂にその人間は骨と皮ばかりになつて仕舞ふ譯であります。縱令その減つた目方が晝の間に殆ど恢復するものと致しましても、成長した人間ならばいざ知らず、未だ發育時代にあるも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のでは平衡が取れませぬ、そこで例へば十四歳まで發育した所で工場生活をすれば、もうそれ以上の發育は出來ぬことになります。只今申します通り實際夜間の體重減量は晝業の間に恢復が出來ない、その上に自然の發育が妨げられますから二重の損害を蒙むつて居ると云はなければなりません、見方に依つては、この夜業と云ふものは長い時にじり〳〵と人間の息の根を止める所の仕事であると云ふて宜しいのであります、然るに偶々息の根の止まる所まで行かずに大抵未遂に終ると云ふものは、その被害者が迚も我慢が仕切れなくなつて自ら逃出すからのことであらうと思ひます、斯樣に思ひ切つたことが罪も咎もない人の子女の上に行はれて居るといふのは實は奇怪千萬のことゝ云ふべきであります。

女工の勤續年限　そこで斯樣な仕事場に於て何の位人間の身體が堪へられるものか、言ひ換へればどの位勤續して行けるかと云ふことでありますが、これに就て調べた所に據りますと、先づ紡績や織物の女工では大抵三箇月乃至六箇月の間に工女を罷めて出る、一年と續くものは半分あるか無しである、工場を經營してゐる側の人々の言ふ所を聞きますと斯う申します、農業から轉じた者は規則的に出來ないから、それで堪へられずして歸るのであると申します勿論それも一つの理由で御座いませう、併し右に申述べた如き仕事は、元來人間の仕事として堪へ得る筈のものでない、確かに人の身體を破壞するものと云はなければなりません。斯樣な譯で大抵三箇月乃至六箇月で居たゝまらなくなつて逃出しますから工場を維持して行くのには一箇年に使つて居る職工と殆ど同數のものを常に補充して行かなければならぬと云ふ結果になります、それで通勤者をも引つくるめて千人使つて居る工場ならば少なくとも八百人は毎年傭入れなければ工場が立行かぬと云ふ有樣であります、そこで所謂女工募集と云ふことが盛に行はれる、その募集に應ずるものは如何なるものであるか、募集の手段、又地方村落に及ぼす影響等に就て

は後に述ぶることゝして、その前に女工の日常生活は如何なる狀態のものであるかと云ふことを紹介致して置き度いと思ひます。

女工の日常生活　通勤の女工は家のあるものでありますから、それは別と致しまして、寄宿舍に居る所の無慮三十五萬の女工の生活に就て、その一般を申述べますと、先づ被服は特別に工場著を用ふることは稀で御座いますが、兎に角工場に出るときの著物と寄宿に居るときの著物とは別にして居りまするし大きな工場に於ては工場著はあると認めて宜しからうと思ひます。

次に食物の點に就て申しますと、これは總て工場主から貰つて居るのでありますが、その食物などを調べて見ますると中々良い物を食べて居るのであります、十年前までは工場の食物と云へば甚だ粗末なものであつたと云ふことでございますが、只今では割合に良い物を食べて居ります、これは工場主が女工を大切にして、その身體の健康を欲するからのことでもがありませう、がその主なる理由は、今日では段々女工の募集が困難になつて來て居る、そこで最も手近な人間の食慾を利用して、女工の御機嫌をとり、それを廣告として募集するやうになつて居るといふことでございます。

それから住居の方は如何なる狀況かと申しますと、小さい工場では、工場の二階が寄宿舍になつて居ります、これは地所が狹いからでもありますが、一つは拘束するのに都合がよい、尙ほ風俗の取締りに便利だと言ふのであります。大きな工場で資本のある所では萬事行屆いて居りますが、大抵工場とは別に學校の寄宿舍のやうなものがありまして、大概二階に十何疊から三十何疊といふ大きな部屋があります多くは光線の採り方も惡く薄暗い室が多い、資本の缺乏して居る餘り大きくない工場になりますと隨分思切つてお粗末な寄宿舍もあります、而して其處に收容して居る女工一人に對する疊數はどの位かといふと、平均女工一人につき疊一疊といふ割合になつ

て居ります、所が澤山女工の集まつてゐる處になりますと、一人に對して疊一疊にならない處があります。次に寢具はどうかと申しますと、特別の處もありますが、普通は先づ女工二人に寢具一組しか與へませぬ、當業者の話を聞けば寢具は一人に一組づゝ渡すが、場所が狹い爲に二人づゝ寢るのであると言つて居ります、一人に疊一疊もないやうな處では實際其方が便利でありませうが、併し一枚の煎餅蒲團と一枚の掛蒲團を貰つて寒夜を凌ぐことは困難なことゝ思はれます。中以下の工場になりますと、場所が狹い上に蒲團が足りませぬから、部屋一杯に蒲團を敷詰めて雜魚寢をし、當番の婆さんがあつちこつちから掛蒲團を引つ掛けて行くといふやうな所もあるさうで御座います。斯樣な狀態でありますから第一窮屈で手を伸ばすことも足を伸ばすことも出來ませんから自然寢苦しくて睡眠が十分に出來ない、從つて休養が十分にとれないと云ふことになります、又前に申しました如く女工の出入は甚だ頻繁でありますから一つの寢具は一箇年の間に少なくとも六人から七人の御客樣を宿します、而してその相手の變はる每度に日光消毒でもするかと云へば決して左樣なことは致しません、それで御座いますから、その六七人の中に傳染病、特に肺結核があつたときには、その後のお客樣に皆傳染することになる、傳染病の傳播には頗る有力なる要素である、尙ほ雜魚寢には其他に種々有害な弊を伴ふて益々結核を惹起す誘引となるやうに思はれます、特に紡績工場の寄宿舍に於ける狀況を述べますと、連續徹夜業をしてゐる工場では、工場の方に女工が二十四時間居ると同時に寄宿の方にも二十四時間女工が居ります。これには二つの方法がありまして、一つは「片番使」他は「兩番使」と申しますが、片番使ひの方は寄宿を折半致しまして甲組寢室と乙組寢室として使ふのであります、この場合には寢室は十二時間主人なしで居ります、而して主人が晝業すれば晝の間は開放しにして風を入れ光線を入れることも出來ます。兩番使の方

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は寢室を甲組と乙組と共同で使ふのであります、それで甲組が夜歸つて朝工場に出掛けると、乙組は朝工場から歸つて來て日暮まで寢るのでありますが、何處も二人一牀と云ふのが通則であります、而して晝間寄宿で眠ります時には、幕を下すとか戶をしめるとかして可成夜の模樣に近寄せますので、兩番使では寢室は年が年中夜の狀態であります、その上寢具までが兩番使になつて四人一具になることさへ無いとは申しかねるのであります。斯樣な生活狀態で以て結核の擴がらざらんことを望むのは、望む方が無理であります。

●●●●●女工募集手段　前にも申しました通り日本の工業はその土地のものを目的として始めるのではなく、反對に遠い處のものを引張つて來て使ふのである、これが國家の上に忍ぶべからざる慘害を與へることになるのであります。何れの工場でも地方に募集員を派遣して女工を募集致しますが、工場側の方で言ふのには、募集に應ずるものがあるからわざ〳〵募集員を出すので、應ずる者がなければ募集を出しはしないと申します、併しこれは田舍の何も事情の解からぬものに對して甘言を以て誘拐するからその募集に應ずるのであります。その一二の聞きました例をお話致しますと、先づどう云ふことを言ふて募集するかといへば、親に向つて言ふのには、娘を工女に出せば嫁入の金が出來る、賃金が溜るから家政の助になる、仕事は至て樂なものであると云ふて聞かせる。次に娘に對してはどう云ふことを言ふて聞かせるかといへば、都會に行けば華美を盡せる、芝居も見られる、活動寫眞も見られる、又寄席に行つて色々な面白いことを見たり聽いたりすることも出來る、金が溜まる、著物を拵らへることが出來る、嫁入仕度が出來ると云ふやうな有ゆる面白いことを竝べ立てゝ都會生活を憧憬せしむるのであります、さう言ふことを言ふて田舍の貧に苦しんでゐる家の娘を引張り出すのでございます。又募集の際に父兄に金の前渡しをすることも御座います、斯樣にして

田舍から娘を連出しますが、これを又外の工場から橫取りをされると云ふやうなことがありますので、色々の手段が行はれて居ります。

此の如くにして連出されて工場に入れられた娘等は仕事が厭になり、或はその苦痛に堪へ切れないで田舍に逃歸るものが隨分多い、これに對しては工場の方でも色々の策略を廻らすのでありますが、幾ら策略を廻らした所で工場の眞相が田舍にも知れ渡る、而して工場に出したものが歸つて來るときには大概結核になつて死んで仕舞ふのでありますから、遂には貧に苦しんでゐる田舍の父兄も自分の子女を工女に出さなくなる、斯うなりますと他の未だ事情の知られてゐない新しい地方に募集に行く、それを稱して募集地を開拓すると云ひます、開拓して三年たてば最早その地に諦めをつけて他の募集地から女工を連出さなければ遣切れないと云ふことになつて居ります、今日の狀況から申しますと最早この新たに開拓すべき募集地も日本には殘り少なくなつて居る、殆ど全國に瀰つて荒らされたと云ふ誠に困まつた事態になつて居ります。

斯う云ふ譯で女工の募集は困難になつて參りましたので工場の方ではいよ／＼術策を廻らすやうになる一二の例を申しますれば、第一に强制貯金をさせます、女工の娛樂安慰に要すべき費用を妨げて强制的に貯金をさせる、而してその貯金の中から國許へ送金させる、無理に送金をさせるのであらうと思ひます、さうして置いて工場の方から父兄に向つて斯う云ふ手紙を出す、あなたの娘は誠に能く働いて身體も至極丈夫である、これだけの送金も出來るし勉勵して稼ぐ、どうか褒めてやつて吳れといふやうな手紙をやります。そこで父兄は深い事情は知りませぬから其通りだと思ひますので、娘にあてゝお前の働いた金を貰つて誠に難有い、實に結構な工場だからしつかり稼げと云ふて參ります。これは一方から考へますと實にひどい苦肉の策で、娘達が自分の父兄に向つて仕事の辛らいことを訴へてやりましても、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

これは娘の我儘で仕事を嫌ふのであらうと云ふことを思はせる惡辣の奸手段とも見えるのであります、さういふ風にして父兄の威力を巧に利用して引止める、それは巧妙にやつたものであります、父曾社では送金の多い工女をおだて上げる、而してその送る金額はどの位かといへば半期で五圓から十五圓は普通であります、田舍の貧家に取つては半期に五圓から十五圓の金はなるほど難有い金でありませう、併しこれで以て家政が根本から救はれる譯でもありませぬ、彼等女工が汗水を流して若い盛りに一切の娯樂慰安をも顧みずに貯金した中から金を父兄に送ると云ふことは見方に依ては誠に尊い心掛けと云はなければなりませんが、これが爲に身を犧牲にして遂には再び起つべからざる不具廢疾の身となる女工の運命は實に悲慘なるものと謂なければなりませぬ。尚ほ一つは寄宿舍などを出來るだけ立派にして、茶の湯、活花、料理などを餘暇に教へ、袴を穿かせ、運動會をやるとか一寸女學生と區別がつかぬ位にして居る所もあると云ふことであります、斯うして兎も角も都會生活の有樣を田舍娘の腦裡に浸込ませるそこで假に身體が續いて二三年も經つて國へ歸つた所で、田舍の外觀の穢ない生活は厭になつて又都會に飛出して來る、或は再び工場生活を送ると云ふことになります。此の如きことは女工に對する好意的設備に相違ありますまいが、事實は一種の女工引止め策、又は吸收策に外ならぬのであります。其他斯樣な手段が幾らもありまして、女工を何とかして吸收し引止めなければならぬまでの狀況になつてゐるのであります。此の如くにしてこゝ數年の後には日本全國が荒らし盡さるゝとゝなるでありませう。

女工の運命　以上述べました所は女工生活の概況でありまするが、斯樣な生活に依て、これに伴つてその裏面には如何なることが生じて來るかと申しますと疾病死亡と云ふことであります。女工には死亡者が多い、而して主もに結核で斃れると云ふ事實であります。全國で二十萬人位は毎年工場に出稼をする

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

やうでありますが、その中十二萬人は出たきり歸つて來ない、その殘りの八萬人だけが先づ郷里に戻つて來るといふことになつて居ります、それで毎年十二萬とすれば十年間には百二十萬人の娘達が田舍から奪ひ取られることになります。これは村落に取りては實に容易ならぬ問題であらうと思ひます、右の十二萬の娘達の運命に就て觀察致しますと、彼等は國を出るときには再び國に歸るときには美服を飾つて歸る、或は父兄の貧苦を救ふと云ふ目的を懷いて出ますが、偖て仕事について見ると思ふに違つて非常に辛らい、決心をしても迚も出來ない、そこで三個月か六個月の間にその工場を去ります。直ちに諦らめて國に歸つたものは幸福でありますが、折角郷里を出て目的を遂せずして歸るのは氣恥かしい、乙の工場が食物が良くて仕事が比較的樂だと云ふことを聞きまするど、智慧のない彼等はその方の工場に這入つて仕舞ふ、此間に於て又各工場に於て各々苦肉の策が行はれて居ります、斯うなりますと、その中には最早普通の娘ではない所謂渡り者になつて仕舞ひまして、漸次精神も墮落して來る、二三個所も轉々して工場を廻り歩いてゐる中に身體も段々緩かなくなる、仕事は厭やになる、そこで女工の中の氣の利いたものは酌婦になり、氣の利かぬものは貧民窟の私娼となり果てゝ仕舞ふものが尠なくないのであります、既に身體の破壞したものが斯樣な業をなすに至つては、その末路の如何に成り行くかは申さずとも分かつたことであらうと思ひます。

次に國に歸る者の狀況に就て申しまするど、國に歸るもの丶六七人の中一人は必ず病氣で而かも重い病氣で歸つて來る、それが八萬の中で一萬三千餘人はありませう、その一萬三千の重病者の四分の一、即ち三千人といふものは皆結核に罹つて居ります。而して此等の人々は故郷に歸つて來て自分の一家は勿論近隣に向つて結核を振りまいて居ります、その戰慄すべき實例は幾らもあるのであります。再び生れ故郷に歸つて來ない、他の十二萬人の者も總て工場

附近にのみうろついて居るのではありません、矢張他の町村に行つて同じく結核を振りまいてゐることは同様であらうと思はれます。

工女の死亡率　石原學士の調査に據りますと工場で死ぬる工女の數は每年千人について最も內輪に見積つて約八人と云ふことである、それから工場で病氣になつて國に歸つて死んだもの、歸つて間もなく重病になつて死んだもの卽ち兎に角工業の爲に影響を受けて故郷で死んだものと認めらるゝのが千人について約三十人となります、併しその他の十二萬人に對しても此數で以て割出すことは少し無法でありませうが、假に十二萬人の人間が悉く健全で一名も死なぬものと致しまして、さうして國に歸つて死亡した人の數を以て故郷を出た人の數を割て見ますると千人中十八人四分と云ふものは工場生活の爲に國へ歸つてから死亡した割合になります、これに工場在籍中の死亡率八人を加へたもの卽ち十八人は女工の死亡率の最低限と見て宜しからうと思ひます、十八人以下のことは決してない、どうしても十八人以上であらうと思はれます。この女工の死亡率を一般の同年齡のものゝ死亡率に比較致しますと約三倍以上だらうと信じます。色々計算を立てゝ全體の女工の死亡數より、女工にならずとも死亡すべきだけの數を引去つた殘り、卽ち全く工女になつたが爲に死んだと認め得べきものが五千人と云ふことになるのであります、言ひ換へれば工業の爲にこれだけの子女が犧牲になつたのである、春秋の筆法で言へば工業五千人を殺すと書くべき所であります。故殺とか謀殺とか云へば刑法上の責任がありますが、斯うして殺すのには何等の制裁も御座いません、工業は見様に依ては白晝人を殺して居るといふ事實を示して居る、然るにその責任を問ふものもなければ世間の人は左程重大の事とも思はず平氣で居るのは實に異樣の感が起ります。

右の歸鄕女工の死亡者はどういふ死に方をするかと云ひますと、約七割は結核で死ぬのであります、他

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の調では八割となつて居ります。

一箇年に工場で出來る重病者はどの位あるかと云ひますと、先づ五萬三百人、その中の四分の一約一萬三千三百人と云ふものは結核患者でありませう、而してその中三千三百人は肺結核であらうと推算されるのであります、兎に角毎年一萬三千三百人からの肺結核患者が色々の道を通じて工場から日本全國に結核を振り撒いてゐるのであります。

●結論　以上述べました所に依て大體女工の衛生狀態を察することが出來やうと存じますが、兎に角前に申しましたやうに五千人といふものは工業の戰爭の爲に犧牲になりましたが、此衝に當りました五千人の戰死者の外に尙ほ二萬五千人といふ工業をやつた爲に重病に陷つたものが出來たといふて宜しからうと思ひます。さうすると今から十年前に當つて奉天の戰爭で戰死者七八千負傷者五萬人位を出して居りますが、丁度これに比することが出來ます、工業の爲に犧牲になつた所の女工の數は奉天戰爭の死者或は負傷者に匹敵すると思ひます、矛を執つて敵に向つて戰死した者は敬意を以て迎へられ、種々の恩典に浴し、國民よりは名譽の戰死者として崇められ、又負傷した者は十分の手當を受け且つ名譽の負傷者として優待せられる、然るに平和の戰爭の爲に戰死したものに對しては國民は何を以て之を迎へ、國家は何を以て之に報いて居るのでありませう、思へば女工の運命は實に悲慘なものと云はなければなりませぬ、彼等女工と雖も矢張吾々吾大事な同胞である單に彼等を憫むと云ふことの外に一方には國と云ふ上から考へましても工業が結核を國內に撒布して世に立つて働くものゝ生命を絕ち、よし生命を絕たぬまでも體質の惡いものが幾萬人出るか分かりませぬ若し此國がいつまでも此の如きことをして進んで行きましたならば我々は子孫の爲に不祥な事を殘すと云ふものであります、子孫に對し又祖先に對し誠に恥かしい申譯のないことであるまいかと思ふのであります。これは決して學者、政事家、資本家、勞働

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

者ばかりの問題ではない、實に日本國民各個の頭上に降かゝつて來た所の容易ならぬ事件ではなからうかと思ひます、考へて參りますと實に寒心に堪へざる事柄であります。

婦人の神經質（承前）

醫學士　志田義三

前にも申上げました如く神經質は決して婦人特有のものと云ふ譯では御座ませぬ、が併し婦人の身體には、男子に較べまするど頗る複雜な役目が自然に具はつて居ります、卽ち月經、妊娠及び分娩と云ふことが御座います、これには又それ相應の神經系統の働が必要な譯であります、男と女は仕事が異るとか職業上の心配が少ないとか申しましても、それは往々理想に止まることで、以て右の大役の補ひとはなりません、それ故に婦人は特にこの神經の衞生に注意しなければならぬのであります。

依てその神經に害を及ぼし易い機會に就て少しく述べて見まするど、先づ月經障碍でありますが、月經時に出血が強く來る、或は長く續きますと容易に身體の榮養が不足する、特に神經系統器官の榮養が惡くなる、又月經時に疼痛が起り、それが絶えず反復致しますときには、神經が過度に刺戟を受け餘計に煩はさるゝことゝなります。

分娩の場合に於きましては、この關係が一層著しい、血液を失ふことも多く、興奮することも強く疼痛も烈しい、殊に頻繁に分娩が續きます場合には神經系統の榮養が著しく衰へると同時に、一方に於てはその働が異常に高まりますから、どうしても神經に故障を來し易くなります、母たる勤は別と致しましても、婦人の生活に於ける無法に神經を勞する事柄は凡て神經質の誘因となるのであります、例へば身體の發育を等閑にし、發育盛の時代に過度に精神を勞するとか、不適當、不滿足な職業に就くとか結婚に出でも種々の事柄が起て來るのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一體婦人の生活に於きましては、就中母となりましては極めて自然の關係に於ても子宮其他の部分に多少の變化を被むるものでありまして、時としては隨分著しい變化を止むることも御座います。斯樣な引續き身に在る所の變化、卽ち加答兒とか、瘢痕とか、位置變常とか、炎症とか、詰り一口に申せば生殖器の局部的疾患と云ふものは矢張神經質とならしむる素因をなすものでありまして、絕えず刺戟を與へて、不快の感覺や疼痛を起さしめ、これに由て神經系統を害し衰弱せしむるものであります。神經質の婦人には前項に擧げました原因のみならず、大抵この後の特殊の原因も同時にあることが多いので御座います。

併し吾々は玆に原因と結果とを取違へぬやうに氣をつけなければなりません、と云ふのは局所的の變化所謂生殖器の病氣が婦人を神經質にするのであるか或は元來神經質であるが爲に右の如き變化を苦痛に感ずるのであるかと云ふことであります。

この後の方の事が事實たる場合が稀でない、卽ち神經の方が再び整ふて參りますと、子宮の方の變化も何時しか氣に止まらなくなる、殆ど忘れられる場合が御座います、然るに子宮の位置の變化が正しく直されましても、これと同時に神經の方を恢復せしむることに注意致しませぬと身體の他の部分に疼痛が起つて來る、例へば以前に潰瘍などがあつて、そこが瘢痕になつて既に久しく忘れられて居つた所の胃などに再び疼痛を起して來ると云ふやうなことが屢屢御座います。

生殖器の病氣が、その神經質の唯一の原因と認めらるゝ場合には、手術をしてもその原因を除かなければなりませぬが、併し生殖器に病氣があり、それが爲に神經質になつたらしいと云ふて、何時でも手術を施せば善くなると思はゞ、それは誤りである、恰も自分の職務を以て神經質の原因であると考へる人に向て、直ちにその職務を罷めよと勸告するのと同じことで、どちらも誤りと云はなければなりませぬ

往々どちらもゝつさ手輕な方法で足りることがある卽ち適當な方法に依て神經を休養し榮養を十分にして神經を強く致しますときには、第一の場合に於ては所謂生殖器病、第二の場合に於ては所謂職業病も苦にならず全然再び忘れらるゝに至ることが少なくないのであります。

斯く申しましても、疼痛があり又は身體に故障を覺ゆる婦人病を棄てゝ置くが善いと云ふ譯では決してありません、又手療治をお勸め致す譯でも御座いませぬ。只醫師が診察をして、その疼痛又は苦痛は身體にそれだけの器質的變化があつて起るのではないと云ふことを確めました時には、吾々は氣で以てこれと戰はなければならぬのであります。

婦人の神經質に特に關係のある原因に就きましては略ぼ申上げましたから、これが豫防の心得も自然御會得になることゝ存じますが、尙ほ一般に婦人の神經の健康の爲めに必要な箇條を左に引括めて申上げます。

健全なる女子は神經の健全なる兩親より生るべきこと（夫を選み妻を選ぶには子孫の幸福を考へ、神經性素質を增さぬやうに心掛けざるべからず）

なるべく兄弟と共に育てられ、秘藏子或は奇童とならぬこと。

身體、從つて神經系も強健に發育すべきこと。

身體の發育盛なる時期には、強ひて精神的發育を要求せざること。

能力に超過せず、自分の嗜好に適せる職務を選び或は本職以外に自分の嗜好に適せる副業を立つること。

結婚せざるものは、烈しく性慾を興奮せしむる如き事柄よりその精神を遠ざくること。

健全なる男子と結婚し、妊娠、分娩及び產褥時には熟達せる產婆を依賴すること。

疲勞、殊に分娩時の血液亡失を恢復すべき機會と時とを見出すこと。

月經時に於ける強度の血液亡失及び強度の苦痛に

際しては早く醫師に相談すべきこと、一般に生殖器の方面よりの疼痛苦惱に於ても亦然り。

社交の選擇に於ても常に精神を健全なる周圍に向くべきこと。

尚ほ神經質となるのを豫防するに最も必要なる三つの箇條は澤山食べて、運動して、睡眠することであります。

育兒

病氣に罹らぬ乳兒

醫學士　竹內薫兵

一　一割半餘の死亡

世界の五大强國、英佛獨露日で、明治三十四年から明治三十九年迄六ヶ年の間、生產兒千人に對して、滿一ヶ年以內の乳兒は幾人死ぬかと、統計を取って見ると、露西亞は一番多く、平均二百六十三人、其次は獨逸で百九十九人、日本は三番目で百五十四人少いのは英國と佛蘭西で、英國は百三十二人、佛蘭西は百三十九人しかない。實に我が國では生れて滿一年までの間に其一割半餘は悉く死んで終ふと云ふ悲慘な狀態である。

日本國全體の死亡數の上から見ても、滿一年までの死亡數は驚くべく多い、日本では一年間に凡そ百萬人宛死亡する。此百萬人の中で滿一年以內に死ぬ者が三十六萬人餘ある。卽ち日本全體の死亡數の三割六分餘は乳兒期に於て鬼籍に上るとは何と寒心すべきではあるまいか。

二　外國でも研究

心ある者は誰しも乳兒を此悲慘な境涯から救はうと思はぬはない。既に各國とも此原因を探究するのに苦心を重ねて居るのであるが、殊に獨逸國の如き「理を究めずんば止まず」底の國民性ある國では非常に

盛で、種々なる重要な原因を發見した中にも、乳兒の多數の死亡の原因は乳兒を母乳で育てずして牛乳其他の品で養ふ方法卽ち人工榮養にある、直接の原因で無い場合にも間接の原因を爲す事は確に多いと云ふので、爾來人工榮養を廢して成るべく母乳榮養を奬勵した結果、近年は次第に此死亡率を減じて來たと云ふ。

日本でも母乳は廢して母乳以外の品で育てる人は決して無いではないが、それでも歐洲各國に比べるとまだ〳〵母乳榮養が盛で、此點は實に我が國の美風の一つであるに相違ない。それにも拘はらず我が國は乳兒の死亡率が依然として多いのである。して見ると我が國では乳兒死亡の原因を必しも榮養のみに置く事は出來ぬと思ふ。

三　病氣に罹らぬ乳兒

で日本は日本で此原因を探究しなければならぬ。が專門學者の研究の結果は一朝一夕で發表し得る程度に達するものでない。だけ之れ丈け一旦發表した以上は確乎たる基礎の上に立つのであるから其事項は變更せらるべきでない。それ故學者には急かせずに悠々と研究せしめて徐ろに其研究の結果の發表を待つより外に途は無いのである。それまでは先づ出來る限り、乳兒の病氣となり易い事柄を除くやうに除く様にと心懸けるのが子の父たり母たる者の務めであらう。卽ち病氣に罹らぬ乳兒とする工夫が肝要であると思ふ。

それは如何すればよいか？　一ト口に云へば乳兒に衣食住を理想的に缺點無く與へれば十分であるがこれでは空論に陷る事となる、抑も滿一ケ年迄の間は乳兒の身體には何が最も影響するかと云へば、榮養であつて看護は二の次に位する。であるから乳兒の病氣に罹らぬ工夫の第一には如何しても乳兒の食物卽ち乳を注意するのが一番肝心であると云ふに誰しも異論は無い、乳の中では生みの親の乳が一番良いことは申すまでもないが、其子供に爲めになる程度は、到底吾れ〳〵の想像する以上であるらしい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

四　五分間づゝ一日五回

母親の乳で育てるとしても、其乳の與へ方が、子供が泣けば飲ませ泣けば飲ませると云ふ遣り方は惡るいから凡そ三時間を隔てゝ與へる樣にするが宜しいと云ふ事は誰しも承知して居る事でありますが、其一度一度の時間が、永過ぎるといふ缺點に陷り易い母乳で育てられてる子供で嘔吐、下痢や發熱などの病氣は、母乳を飲み過ぎたが爲めに起こる事が非常に多い、元來子供に病氣の無い限り母親が附いて居て、子供の乳不足、飲み足り無いと云ふ事は我が日本には殆ど無い事であると云つてよい。それでは如何位飲ませたら好いかと云ふに、子供の體重何程に就いて母乳何程飲ますべきであると云ふ事は、學者が既に研究して判つてる事であるから其通り行へば可いのであるが、誰しも其子に毎日毎回子供の目方を秤つて與へる譯に行くものでない。

私は此學者の定めた分量だけ、日本の子供が飲むには何分間、母の乳房を含んでればよいかと思ひまして、或る子供を生れて十三日目から毎十ケ月の終まで、一回も缺かさず、乳を飲む時間を測定して見ましたところが、生れて二ケ月目頃までは一回に五分間、その後は六分から七分、九ケ月十ケ月の頃になつて十分間飲めば十分である事を知りました。十分だと云ふのは、かう云ふ具合に時間を短かくして飲ませても、子供の體重はどん／＼増して行き元氣も食慾も睡眠も顏色もすべて異常が無く育つからである。回數は生れて間も無い頃は七回又は六回でありますが、一ケ月經た後は五回でずつと續けたのである。外の子供を二人、試に生れたてから七ケ月程の間、矢張り初めの間は一回五分間、後には七分間程づゝ飲ませて見ましたが矢張り至極丈夫に育ちまして一度も嘔吐下痢、熱發などは無かつた。

凡そ乳の分泌量や子供の乳を吸ふ力は、誰も同じ樣に行くものでないから、私が二三人で實驗したからと云つて、どの子供も一回五分間でよいとは行かぬしかし斯う云ふ實例もある事であるから、成るべく

乳は少し飲ませて育てる方が安全であると云ふ事を述べたいのである。從て一回の時間のみならず一日中の回數も成るべく少いがよい。夜中は成るべく飲ませない事とし、已むを得なければ夜半に一回だけとして、一晝夜で五回乃至六回以上は與へないがよいと思ふ。

成るべく少しの乳を以て養ふが子供の健康のために一番宜しいのであるから。

五　入浴の溫度

吾々日本人は自分も屢々入浴する代り、其子供をもよく湯に入れる事は非常に善い習慣である。しかし其溫度が少し高過ぎると思ふ。熱い湯に入る習慣は重ね著と同じく改むべきである。日本人の入浴溫度は平均何度かと云ふに、東京の人八人の大人に就いて私が測定した所では平均は冬で攝氏四十五度乃至六度である。中には四十九度で平氣な人もある。江戸ッ子は熱い湯好きと云ふから日本人の平均はこれよりも低いに違ひないが、違つても一度か二度位なものである。かう云ふ人達が其子を湯に入れる際には、成程自分の入る湯より溫度は低くするではあらうけれど、實際子供に適當な溫度よりも高くなり勝ちである。

西洋人は生れたてから其後暫時の間は攝氏三十五度で大きくなるに從つて、これよりも二度乃至三度下げるがよいと云ふて居る。實際三十五度と云ふ溫度は吾々が手を入れて見ると日向水位の溫度しかないので、とても自分は素より、子供を入れやうと思へない位である。これより低い溫度となると尙ほ更である。

西洋では室の構造が無闇に隙間風の入らない樣に出來て居るからこれで良いが、日本の家屋ではさう行かないから、日本でそんな事をしたら直ぐ風邪をひくと云ふ人もある。尤であると私も思ふ。併し身體のためには熱い湯に慣らすよりもぬるい湯に慣らす方が良い。皮膚が丈夫になるからである。湯に入れてる間に手掌で以て子供の身體を殘る隈無く摩るの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は非常に良い方法である。畢竟、入浴の温度は直ぐに西洋風にしない迄も、現在の我が國の風習は少し高過ぎるから、もつと低温度の湯に入れる習慣をつけた方が良い。入浴中は子供を其儘置かないで、垢を取つてやると云ふ目的よりも皮膚を丈夫にしてやる目的で、全身を摩るが良いと云ふのである。

六　夏の小袖

我が國の親達ほど子供を大切にする國は少いと云ふ事である。其爲に衣類も成るべく多く著せる。冬の事は暫く措いて、夏の乳兒を見ると哀れに思ふことが多い。風邪を引くと云ふ虞れのためであらうが、衣類だけでも二枚は著せられる。中には一枚は「ネル」を用ひる親もある。其上腰の周圍は襁褓を二枚三枚と當てる。其襁褓も「ネル」だの木綿の厚い布片だので、これを折り返して卷くために六重七重の厚い布片で卷かれる事となる。大人は裸體で居ても酷暑に堪え難い時に、乳兒をば蒸す樣な結果となるのである。乳兒の有り難迷惑は一ト通りでない。只この著過ぎるため、著過ぎるために病氣となる子供がいくらもある。夏の小袖は誰しも喜ばない筈である。殊に小便の通じがあつて直ぐに取り變へないと、腰から腹へかけて、小便漬又は小便蒸しの形となり、子供は益〻たまらなくなる譯である。どうかして今少し子供にも涼しい思をさしてやりたい。

七　大小便の面倒は不要

子供を小便漬にする結果、却て子供は風邪を引く、續いては種々の病氣をも起こす。又何度も何度も此樣な事があると股から尻へかけて赤く糜爛が出來、これから種々な病氣も起こる。風邪を引かせまいと思ふて重ね著させる親心は有り難いが却て仇となつて、重ね著のために、又重ね襁褓の爲めに病氣を起こす事となる。襁褓は大小便で衣類を汚すのを恐れて之れを防ぐ目的に卷くものであるから、大小便で衣類を汚す事さへ無ければ襁褓は不要であるか、又はほんの用心のために一枚薄い布片を當てゝ置けば良い事となる、然らば大小便で衣類を汚す恐れは無

くすることが出來るかと云ふに、曰はく、出來るのである。

母乳で育てゝ居る子供は生れてから暫時の間は少くとも一日に十回以上は小便をし、一二回は大便の通じがあるものである。小便通は少くも哺乳回數の二倍丈けはあると見てよい。而して初めの間は子供はよく眠るもので二十四時間の中二十時間は、睡眠する。此睡眠は時々自然に覺めるもので凡そ三時間毎空腹になつた頃である。覺めると尿通がある。尿通があつてから泣くものであるから、子供が眠りから覺めたと思つたら、室内へばけついか金盥を入れて置いて、直ぐに起こして小便をやつてやるのである。初めは必しも遣つてやる時はかり尿通はないもので隨分無駄骨を折る事もあるが、物の十日と經たない中に必ず癖がついて、小便は遣つてやらなければ出ない事となる。生後七日目から初めて大丈夫である。子供の小便又は大便をするのは眠から覺めて直ぐか又は泣いてからであるか、又はそれから乳を飲んでからであるかと云ふ事に就いては議論のある事ではあるが實驗して見ると、眠から覺め、覺めると便通があり、それから泣くといふ順序になるのが一番多い。であるから初め癖をつけるにも眠を覺ましたら直ぐに遣るが良いと云ふのである。室内でお尻を捲くつたからと云つて、注意して行へば決して風邪を引く憂はないものである。

こんな簡單な事で子供の病氣になるのも餘程防げる事が出來、子供を大小便蒸しにする恐れも無く、襁褓を寒中に洗つて乾かすと云ふ母親や女中の手數も省け、悲しい思を爲ずに濟むのであるから、子供には良癖をつけたいものである。

八　外へ出す事

風邪を引くと云ふ事を非常に恐れる結果、どうしても乳兒を外へ出す事は爲にくいものである。然し外の空氣光線に當てるといふ事は、乳兒には大切な事である。論より證據、乳兒は外へ出ると元氣が出て非常に喜ぶのでも判かる、日本の室の構造は西洋と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

異り、空氣の流通が十分であるから外へ出す必要はないと云ふのは間違た考であると思ふ。

冬でも適當に暖かな衣類を著せて外へ出す事は妨げないのみならず、むしろ奬勵すべき事である。これも小い時から行へば癖になるもので、外出といふ事で子供の健康は餘程增進するのである。アレキサンダー大王も曾て「予ハ數多ノ醫師ノ助力ノ多キニ過ギタルガ爲メニ死スルナリ」と曰つた事がある。餘り大切を取り過ぎると却て身體を害ふと云ふ結果になるものである。

九　藥を飮んだ母の乳

母親が病氣になると藥を飮む。すると其乳は子供に飮ませては毒だと思ひ、わざ〱子供には貰ひ乳をしたり、又母親が病氣になると乳へ毒が出て來ると思つて病氣の間は子供には其親の乳を飮ませない人が隨分あります。成る程母親が藥を飮むと乳の中へ其藥は出て來ます。然し如何な藥も皆分泌て來るものではない。確かに出て來ると判つて居るものは「サリチール」酸、沃度加里、沃度「フォルム」、亞砒酸、水銀、「アルコール」などで、又此外痲醉藥は大抵乳の中へ出ます。それ故「クロ、フォルム」や「モルヒネ」や「エーテル」などは皆乳の中へ出て來るのであります。親が酒を飮めば子供も醉う譯であります。殊に「アルコール」は飮むと直ぐに乳へ出て來ますから親が子供を抱いた儘で白酒を飮むと子供の顏も直ぐに赤くなると云ふ事はよく見るところであります。

出る事は出ますが其分量は非常に僅であるから、其爲めに子供に害を及ぼすと云ふ樣な事はない。普通醫者が盛る位な藥の分量で十日や二十日母親が飮み續けたところで、たとひそれが「モルヒネ」であつたところで、子供に害を與へる樣な事は無い。從て子供が病氣になつた場合に親に藥を飮ませて、それで以て子供の病氣を治さうとしても駄目です。子供に利く程乳の中から藥を出さうとするには、親の身體に害になる程藥を飮ませなければなりませんから。

只分量を多く用ひたり、永く飲み續けたりする事だけは避けたがよい。喰べ物でも藥でも同じ事であるから、母親は永く續けて青魚、葱、酒類などを用ゐるのは止すがよい。と云ふだけで、母親が一時病のために藥を飲む事は少しも乳に影響を及ぼすものでないから、どし／＼藥を飲んで、構はず乳を飲ますがよい。

十　病氣の母の乳

母親が病氣になると子供に乳を飲ましては惡るいと思つてる人は矢張り少くない、而かも何病でも乳を飲ますは惡るいと思ふ人が多い。しかし實は取り越し苦勞であつて實際子供は母親の病氣を傳染されるものではありません。只母親が肺結核の時だけは子供に乳を與へないがよい。これは乳の中へ結核菌が出て來る譯ではないが、痰だの唾液から傳染する危險があるからである。であるから第一期卽ち熱が少し、時々出る位の結核ならば遠慮なく飲ますべしである。腸「チフス」とか猩紅熱と云ふ樣な重い熱病に母親が罹つても、其ちゝを子供に飲ましたとて、決して其乳から子供に病氣が傳染するものではない、殊に生後六ヶ月までの子供ならば猩紅熱の母親の傍へ置いたところで傳染は先づ少いと見てよろしい。其位であるから、「インフルエンザ」や腸加答兒や持病の癪や風邪などの母親の乳でかれこれ心配する必要は少しも無い。

産褥熱や丹毒の重い時、又は性質の惡るい糖尿病や發作の繁くある癲癇などは、乳に毒のある譯ではないが、種々危險があるから母親と離して置くがよろしい。

又母親の乳房へ腫物が出來て腫を持つやうな場合に之れが兩方の乳房であると、其膿や血を子供に飲ましては惡るいと思ひ、わざ／＼外の物を拵へて飲ますと云ふ事はよくありますが、これも無駄事であります、子供は少し位膿や血を飲んだところで決して病氣になるものでないから心配せずに、どし／＼痛い乳房をお吸はせなさい、すると母親の方も苦痛が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

取れ治り方も早い。子供も乳を離さないで濟みます。しかし乳房の腫物は醫者の手を借りて治すより外に途はありません。私は腫物には相當の手當を行ひまして、一方子供には此腫物の出來てる乳房をいつも吸せます。一度も子供が病氣に罹つた事はなく又母親の乳房の治り具合の惡かつた事もありません。

＊　＊　＊　＊

病氣に罹らない子供にせうと思ふならば、それが乳兒の間であるならばもつと子供の取扱を大膽にしなければならぬと私は思ふ。我が國の親達の乳兒を育てるに就いての通弊は「大切にし過ぎる」にあると思ふ。而かも此「大切」と云ふ事がよく子供を理解しないで取扱ふのであるから、子供に取つては有り難迷惑此上ない事が多い。のみならず直接害になる事も決して少くない。であるから我が國の親達が乳兒を育てる上に就いて、取るべき態度はもつと乳兒の事をよく承知して、馬鹿心配をせず、子供の自然の要求をよく飮み込んで其發達を助けてやる樣にするのが急務である事を、くれ〴〵も申添へて置く。

呪はれたる兒（其五）

市場鴨村

今回は貰兒渡世をして居るものゝ棄てたる兒に就て御話を致すことにします。

昔から貰兒殺しといふことは行はれて居つたやうであります、が近代に至つては特に生活難といふ社會組織を破壞する爆裂彈が、容赦もなく下層社會の頭上に向つて墜落するのであらゆる犯罪が醞釀されるのであります、恒產あつて恒志あり衣食足りて禮節を知るといふことは確に一面の眞理であります、自己の生活が苦しきよりいつしか萬物の靈長たる人間が惡鬼と化して、恐ろしき罪を犯すやうになるかを思へば慄然として戰かざるを得ません。

去る明治四十一年五月のことであります、當時鬼夫婦と題して市內の各新聞紙に喧傳された一事件があ

りました、讀者諸子の中には定めし記憶に存して居らるゝ方もあるでせう、偖この鬼夫婦として一時社會の耳目を驚倒せしめたる世にも怖ろしき悪漢毒婦は、牛込區横寺町三十六番地松永伊千藏及び內縁の妻金村ハルといふものであります、彼等二人か共謀して養育料（其高は五圓以上三十五圓までゝした）付きの乳兒を所々方々から貰受け、何程も經ぬ間に無慘にもこれを塵芥箱や路傍へ遺棄したのです、悪むべき彼れが法廷に於て自白した所では都合十三名であつたさうです、が其內六名は不幸中の幸運兒として東京市養育院へ收容されたのであります、餘の七名の行衞は遂に不明に了はつたのは如何にも遺憾でありますが、思ふに彼れ鬼夫婦が海に投げ込んでしまふたものやら、又は拾はれても警察署へ屆出でられず密に我が兒として屆出でた其儘になつたものか、今更知るによしがありませんが養育院へ收容された六名の乳兒に就て其顚末を記して見ませう。

彼の鬼夫婦が三十九年十二月中神田區三崎町三丁目一番地口入業某の周旋にて貰受けた幼兒は、翌年一月十八日本鄕區元町二丁目四十七番地先に遺棄されたのです、收容後本鄕元二と命名されました、當時彼れはカタル性肺炎の徵候がありましたのが間もなく全快して里親の懷に抱かれるやうになりました、それから一層壯健になつたさうです、次は牛込區赤城下町〇〇館止宿〇某より貰受けた幼兒は、本所區橫網町一丁目十七番地森茂三郎方の門口に遺棄されたのです、收容後外山ウシと命名されましたが、憐れなことには榮養極めて不良であつた爲め四日を經て卽ち四十年十二月九日死亡しました、次は神奈川縣三浦郡初聲村字和田原〇初〇郎より貰受けた幼兒は、淺草公園消防詰所の天水桶の上に遺棄されたのです、收容後西浦フヱ子と命名されましたがこれも亦不憫にも榮養不良の爲め三四日を經て死亡しました、次は府下巢鴨町三丁目尾〇德〇郎より貰受けた幼兒は、神田區錦町三丁目信田虎雄方の塵芥箱の上に遺棄されたのです、收容後五十嵐ノブ子と命名さ

れ直に里親に託せられました、次は牛込區矢來町一番地〇木方同居〇木倘〇より貰受けた幼兒は、本所區相生町十七番地先へ遺棄されたのです、收容後松山スチ子と命名せられたのです、これも亦直に里親へ託されました、次は日本橋區横山町二丁目十七番地〇川〇之助方山〇キ〇より貰受けた幼兒は、小石川區大塚上町五十嵐滑八方へ遺棄されたのです、收容後卯月ハナ子と命名されこれも直に里親へ託されました、以上六名の內二名は無殘にも鬼夫婦が虐待の結果榮養不良に陷り憐れ歸らぬ旅路へ赴いたのです、前號にも縷述したやうに下層社會は生活に惱まさるゝ爲め切つても斷れぬ我が兒をば無慈悲にも先方の身許を碌々調査せずして、僅かばかりの金子を添えて犬猫でも投棄るやうに處置をつけやうとするものが逐年多きを現はしつゝあるやうです、なんと慨かわしき現象ではありませんか、鬼夫婦ともいはるゝものはそれをば寧よいことにして貰つては棄て貰らつては棄てるのです棄てられたる乳兒こそ不憫この上なしです、推測する處、棄兒の二割はこの類が包容されて居るかと思はれます、次は賣笑婦か宿した兒の所置に苦しんで棄てたる兒のことに就て御話を致しませう。

賣笑婦の近來頗る多きを加えつゝ來たことは實に豫想外です、都市は勿論何處の津々浦々に到るまで賣笑婦の出沒せん所はないでせう、私は元來賣笑婦に就ては專門に研究しつゝ居るものですから、是を詳細に述べやうと思ひますれば隨分材料は手許に蒐集してあります、がこれを一々縷述することは却て讀者諸子をして不快の感じを深からしむるまでゞ益なきことゝ存じますから、賣笑婦の系統種類の如きことに就ては省くことゝ致します。

賣笑婦とて客の胤を宿さんとは限らんのです、否大に宿すのであります然し胤を宿して後の始末は到底客たるものゝ責任ではない、甲の客は乙に乙の客は內になすりつけやうとするのは言ふまでもないことです、蓋し彼の賣笑婦の多くは性來淫佚放縱のもの

です、一旦賣笑婦に墮落したものは堅氣の渡世を厭います、否堅氣にならうとしてもそれだけの辛抱がつゞかないのです、從て一家を構へて夫婦共に苦勞を致さうなどゝは思はないのです、つまり兒を産んで見た所で始末のつけやうがないのです、貰ひ手はなし押つけ場はなし、棄てるか殺すかより他に途はないのですから、彼れは終に可憐の乳兒を棄てる氣になるのであります、是等の實例は私が申上るまでもなく時折り新聞紙の三面記事で御覧になることがあるでせう、如此惡現象は是非ともこれを撲滅する策を講せねばなりません、それには第一著手として私娼卽ち社會の各階級を通じて跳梁跋扈しつゝある賣笑婦をして正業に就かしむる手段を講せねばならぬと思はれます、今日の所ではそれに手を著けてるものがないやうです、彼れが客の胤を宿すや墮胎の方法を執るか、棄てるか其一に出づるとしたならば社會風紀維持の上から由々しき出來事とはいはねばならぬでせう、凡ての事は防貧といふ問題が基礎になつて居ります、若しこの問題に解決がつきさへすれば其餘の問題はさながら亂れたる絲の緒口を得たと同樣すら〳〵と解決さるゝでせう、けれど下層社會を救濟することは餘程の研究問題です、徒に救ふてやるといふことでは却て彼等を害ふものであります、例へば彼等を救濟する方法の一として長屋を建設し特別に低廉なる家賃で住居せを見た所で、彼等は直に其恩惠に馴れナアーに慈善的長屋だ家賃抔拂ふ必要がないと云ふ風に横著心を起すものが隨分多いやうに見受けられます、不憫だと思ふて金錢を貸し與ふれば彼等はいゝことにして返濟する義務などはとうの昔に忘れて平然たるものです、どうしても彼等に相當の職を與へて自ら勵み自ら修めしむることが肝要です、さればとて如何に奮闘的に働いても夫婦に子供一人養育しゆけぬとなれば、彼等は勢ひ自暴自棄の人間となり、果ては德義を無視するはまだしも種々なる犯罪を敢行して毫も顧みんやうになります、殊に無教育なる婦人は賣笑婦に墮落し

易いのです、其結果はいふまでもなく私生兒を産むのです、而して彼等は殺すか棄てるか、殺さず棄てざるまでも産れたる兒は私生兒として戸籍に登錄さるゝことは免かれ得ぬのです、何にも分らぬ罪なき兒の身の上に取つては棄兒同樣永遠に苦痛を與へらるゝであります、それのみならず私生兒の多きは決して國家の名譽ではありません、吾人が今日國家に對する義務としては是非とも彼等賣笑婦の剿滅を謀り從て彼等に因て産れたる棄兒の減少を講ずべきことであります。

家庭衛生

冬季の寢食

小寺照二郎

人間は食ふて働いて寢る、これが最も大切なる生活の三個條で、適當に食し、適當に運動し、適當に睡眠が出來れば先づ／＼健康は保てる筈であります。然しこの適當といふことが六ケしいのであります。種々の事情に由て知らず／＼不適當になる、或は知りつゝも止むを得ず不適當になつて仕舞ふ、つまりそこを出來得るだけ適當にして行くのが個人の衞生と云ふことになるのであります。

偖て第一に食物の事でありますが、冬季は夏とは異ひまして餘計に體溫を奪はれますから、それだけ餘計に體溫を保たなければなりません、これには衣服を重ね、室を暖かにして身體の周圍に適當な氣溫を作れば宜しい譯でありますが尙ほ身體の內で澤山溫度を發生するやうにする必要が御坐います、それには澤山食物を取ることが必要である、特に脂肪や蛋白質に富むでゐる肉類を十分に食べることは確かに利益である、併し冬は消化器も比較的丈夫であり、食物の腐敗するやうな憂も少ないのでありますから、穀類、野菜、殊に薯類の如きものでも兎に角澤山食

べ得れば宜しいのであります、然しさうなりますと冬は又運動が少ない、不活潑になり易いと云ふ點がありますから矢張消化の難易を考へて、なるべく消化し易い、熱を多く出す性質のものを澤山食べるやうに致し度い、これにはどうしても肉類を混食するのが適當であります。それからもう一つ考ふべきことは、寒いからと云ふて無暗に熱いものを食べることであります。これは口から咽頭、食道、胃に至るまで充血を起しますから、咽頭を荒したり胃を惡くする處があります、注意すべきことであります。次に男子では酒を防寒用に飲用する、これも適當に用うれば誠に快いものに相違ありませんが、實は防寒用としては適當なものとは云ひ難いのであります況や雪の降る夜におでんやで熱服するなどは危險である。次に誰でも考ふべきことは食事の時間であります、冬は兎角朝飯が遲くなります、先づ八時、九時と云ふやうになりがちである、然るに晝食の時間は動かさない、矢張十二時を合圖に食べる、その間が三時間か四時間しか經たない、胃では朝の食物を料理して段々腸の方に送つて居るがまだ運び切れない中に次の食物が這入つて來ることになりますから大まごつきを致します、それから夕食が勝手の都合上から日の暮れぬ中に片附けやうと云ふので又四時か五時頃になる、同じく胃の中の消化が終らぬ中に重ねて新しい食物が押掛けて參ります、胃は泣顔になつて働きづめに働かなければならぬのであります而して其後はどうなるかと申しますと、翌朝の八九時頃まで十五六時間は干乾になります、でなければ夜中の十二時頃になつて腹一杯にお蕎麥などが御馳走される、何れも餘り胃の爲には難有くない御仕打で御座います、これはどうしても朝の食事を六時か七時頃にしなければ、その遲いだけ晝食を後らし、從つて夕食も遲くして食事と食事との間を五時間以上にしなければ宜しくないのであります。

次に寢ることでありますが、冬は睡眠時間は大抵十分である、只寢室の狀態に就て注意しなければなり

ません、と云ふのは冬は大抵少しも隙間なく室を密閉致しまして、内には火鉢を置き暖爐を炊き、或は炬燵を入れて寢ると云ふやうなことになりますそれで室内の空氣は人の呼吸で汚れるのみならず火鉢や炬燵から出る炭酸瓦斯で惡くなりますから、假令氣がつかぬ程でも健康に有害である、其他小兒を抱寢しまして蒲團を重ねますから、腕や乳房や夜著の襟などに依て幼兒を窒息せしめたと云ふ例が新聞に現はれて參ります、尙ほ炬燵にのぼせたと稱して炭酸瓦斯の中毒が屢々起ります。此等の點は冬の寢室に於て注意しなければならぬ事柄でありまして、特に老人に對しては暖かに身體を保護することに意を用うると同時にこの炬燵中毒に氣をつけなければなりません、實際窒息して死亡した例も御座います斯樣な場合には速に戸を開け或は室外に引出して新鮮な空氣を呼吸させなければならぬのであります。

女中さんの手

冬になりますと女中さん方の手は何れもヒビ、アカギレと云ふ有樣で誠に痛々しく見受けられますが、實際冷水に浸し、寒風に曝す機會が多いのでありますから止むを得ぬ次第ではありますが、一つは自分の不始末と云ふことも餘程手傳つて居るのであらうと思ひます。ヒビ、アカギレを豫防致しますには、手を淸潔にして置くと云ふことが案外必要なことであります、併し石鹼で洗つてそのまゝにすれば手の脂肪が無くなりますから却てガサ〳〵になります、石鹼で洗つたならば必ずその後で脂肪を塗らなければなりません、それから手を濡して十分乾かさなければ容易に凍傷に罹ります、雜巾掛をした後でその濡た手をそのまゝ不潔な前掛などで拭つて置けば無論アカギレが出來る位は不思議はありません、拭掃除乃至臺所の洗物をした後では必ず手を淸潔に洗つて、よく拭き乾かすことが必要である、これだけの

注意でも守れるならば餘程ヒビ、アカギレを免れるに相違ない、その證據には同じ仕事を致しましても所謂ダラシナイ女中さんがどうしてもヒビ、アカギレに惱まさるゝことが多いのを見ても分かります、女中さんの手は其家の奥樣の批評の種にもなりますから氣を付けなければなりません、實際女中さんの手は其家の臺所に於ける衛生狀態を推察せしむるに足るのであります。

凍傷に罹りさうな時には手を清潔にし、乾かし、手の掌を以て強く手の甲を摩擦する、熱い湯に浸し又冷水に浸す或は酒で濕布する等のことも效能があります。いよ〳〵赤く腫れ或はヒビがきれましたならばベルツ水を塗り或は沃度丁幾、沃度グリセリン、沃度コロヂウム、又はテール劑或はイヒチオール又はレゾルチンなどを加へた亞鉛華泥を塗布し、又は樟腦油とラノリンを揑つたもの、其他イヒチオールとレゾルチンと單寧を混ぜたものを塗布する、斯樣な凍傷の藥は殆ど無數にありますが、何れもその人其場合に依て能くきくものであります。



○看護婦救濟會

大日本看護婦協會東京組合にては、看護婦の重病に罹れるもの及び老年に到りて其職に堪へざるものを救護するの目的を以て看護婦救濟會を組織することゝなれりと、其の主意書及び會則等左の如し。

派出看護婦救濟會主意書

事々物々日に進み、精神的に物質的に一刻一刻進歩しつゝあるを見る今日、女子教育も亦日に盛に成り來り、婦人に對する昔日の觀、殆無しと雖も、猶缺陷尠なからず、卽ち婦人に資產權無きが如きの此の一例なり、古來三界に家なく、親に據り夫に據り、子に依賴して、以て僅かに生命を保ち得るを婦人と云ふ、此上にも亦資產權を有せざる婦人が、一朝其三依賴者を失ひたりとせば如何健康なる身體を持乍ら、猶生命無きもの丶如く、あはれ路頭に迷はざる可からず、我等此淸廉崇高なる看護の職に居る者に於ても亦然りとす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

至誠以て一身を慈愛に滿ちたる尊き天職を捧ぐるを自ら幸福とし最も危險なる病者の間に常に起臥して之れを慰藉し、看護するを以て志とするもの、卽我等が覺悟なり、然るに人は元來健康を祝せざるものなしと雖も、時あつて自然の軌道を外れ、病に犯さるる事無きを期す能はず、且又老の到着を避くる事も爲し能はざる處なり、而して今や社會の趨勢を見るに、生存競爭日を追ふて猛烈にして弱者の生存に對して酷極まれり、婦人に於ては猶一段の不都合なる點多し、是れを思へば、一面博愛仁慈の職に從事し乍ら、一面其後顧の憂無き能はざるは、人情の無理ならぬ處、勞淸廉無慾なる可き職に在つて、蓄財の止むなきに至る者も有る可し事實之れを如何とも爲す能はざる處なり、而して世は彼等に說くに、人格の養成、技術の鍛錬を以てす。既に此の後顧の憂を常に抱ける彼等に、是れが掩護、救濟の道を講ずる無くして唯に斯る點のみを強ひて、其の實の擧がらざるを責む、是れ其の爲ざるものに罪少なくし、却て方法を講ぜずして徒に責むる者に罪の重きを思ふ卽ち此處に救濟會を起し、既に其職に堪へざるもの、病なを得て依るに家無き者を救ひ、且は職に從事せるものをして、後顧の憂より救ひ、從容自若事に臨み、人格を養成し技術を今一層洗練し、看護婦の地位をして高からしめ、目的に向つて勇進せしめんとす。

此の救濟會の必要に就ては、各人の認むる處にして、此設立の案は昨春季總會に於て、滿場一致を以て可決したり。既に地盤の假定は成れり、將に是れが本組を要するの時と成れり、本組卽、如何なる方法に依つて是れを完全に發達せしむ可きかは是れより共にく考究せんとする處なり、我等は總會一致彼等が至誠を以て一意專念其大職を遺憾無く行ひ得るに適當なる方法を講ぜんとする一心あるのみ。

此職の眞價を認め且つ同情ある諸姉。感奮興起少金を節して是れが成立に盡力せられん事を希望して已まざるなり。

大日本看護婦協會東京組合附屬
看護婦救濟會發起者一同

豫算

我等は是れを五年計畫を以て成立せしめんとす、是れが豫算を立つるに我組合に屬せる現會員約六十餘名有り、之れが會費を其最低額廿錢平均として一ヶ月拾貳圓此附屬會員を約六百名と假定して其會費の上り高は、月拾八圓、之れを合するに、毎月金參拾圓にして一ヶ年參百六拾圓を算し我計畫たる五年後には千八百圓の額面に達す、之れに五ヶ年の利子を合する時は、貳千圓程に達す但し是れを如何に使用すべきかは數十回の會議に於て相談の上とす。

報告

會務、會費等に關する總ての報告は時々雜誌看護婦紙上或は別印刷物を以て報告す。

目的　（規則）

一、本會は派出看護婦にして既に老年に達して、其職に堪へざる者、及び重患に陷れる看護婦を救護するを以て目的とす、（但三ヶ年以上救濟會に屬し會費を納めたるもの）

名稱事務所位置

一、本會は大日本看護婦協會東京組合附屬看護婦救濟會と名く
一、本會は事務所を大日本會護婦協會東京組合假事務所に置く
會員、特別會員、名譽會員
一、各會附屬會員にして每月金參錢宛を納むる者を會員となす
一、各看護婦會主にして、月金拾錢以上を納附する者を特別會員とす
一、本會の趣旨に賛成し寄附せられたる者を名譽會員とす
職員
一、本會は左の職員を置く
會長一名、大日本看護婦協會東京組合長之れを兼ぬるものとす
理事　同上
會計　同上

○子供の好き嫌ひ

東京市養育院附屬小學校の岡教師が尋常科一學年生中の第二組(學力程度低きもの)五十五名に對し一より四までの答案を求めたるに、左の如き結果を得たりと云ふ。

(一)　食物中最も好物なるもの
豆、梅干、牛肉、魚、餅、團子、赤飯、菓子、夏蜜柑、枇杷、胡瓜、茄子、汁粉、大根漬、薩摩薯、右全部

(二)　食物中嫌ひなるもの
蕗　八人、胡蘿　六人、馬鈴薯　三人、鮭　四人、鰊　七人、アミ(蝦の小なるもの)　十二人、鱈　十六人、里芋　三人、豆腐　二人、南瓜　六人、計九十五人

(三)　面白きもの
活動寫眞　全部、御神樂　全部、茶番　全部、幻燈　四十五人、效外散步　全部、遠足運動會　四十二人、電車搭乘　全部、お伽噺　四十二人、音樂ご遊戲　全部

(四)　こわいもの
狼　全部、狐　全部、獅子　全部、ばけもの　四十六人、蛇　四十人、蝮　全部、馬　十五人、犬　五人、蜂　五十人、毛蟲　二十六人、雷　四十人、地震　全部、火事　全部

○有毒化粧品

昨年來警視廳に於ては飲食物中に混和せる木精の檢擧に努めたるを以て近來全く其影を認めざるに至りたるより更に化粧品に就て調査を始め一著手として去月二日日本橋區通二丁目日華堂發賣に係るフケ取り香水を買入れ同廳試驗所に於て分析したる處多量の木精混入したるに拘らずペイパに木精混入の旨を明記しあらざる爲め右發賣者及び製造者を內務省令八號取締規則違反者として檢擧したり去る明治四十

五年九月取締規則公布以來警視廳に於て化粧品の調査をなしたるは今回が始めてなるが尚今後引續き大大的に調査を進め違反者は容赦なく告發すべしと

○大阪子守慰安會

大阪府教育會にては、大阪市内の子守の風儀著しく惡く、殊に乳兒の賺し方、遊ばし方などに無頓着なる爲め、乳兒に惡影響を及ぼすこと尠からざるを憂ひ、去月二十八日午後一時より四時まで、大阪府立博物場内にて子守慰安會を開催し、市内重立ちたる家庭の子守約八百名を集め、子守の心得、乳兒の取扱方等に就き一場の講話をなし、更に各種の餘興等ありたる筈なり、尚同教育會の調査によれば、大阪には下女、乳母の數約十五萬ある内、年齡十一二歳乃至十四五歳迄の子守は一萬以上もあるべきが是等の六分は府下各郡、紀州、大和、播州地方出にて、義務教育を終へざる貧家育ちのもの大部分を占め居ることゝて、餘程行儀作法を仕込まざれば野性に流るゝを免れず、動もすれば乳兒を背負ひたる儘各所を遊び歩きて野卑なる流行唄を覺え、果ては乳兒にも種々の惡感化を及ぼすなど實に危險至極の狀況にあり、今回の慰安會によりて好結果を得たらんには、進みて東京、京都に於けるが如き簡易なる子守保育學校を設くる筈なりと云ふ。

○製絲工女と不就學兒童

長野縣にては、先頃より縣下不就學兒童と製絲工女との關係に就き調査を行ひしが、今其結果を聞くに製絲工女となる爲め就學せざる學齡兒童は合計二千五百六十八人あり。斯く不就學兒童の多きは教育上甚だ遺憾とすべき現象なれば、當局にては就學奬勵策に就き、講究しつゝあり。

○兒童娯樂研究會の設立

東京有樂座にては、數年前より子供日を設けて專ら子供本位の娯樂に供せしが、此度兒童娯樂研究會を設立したり、柳澤伯を會長とし、巖谷小波、高島平三郎、倉橋惣三、久留島武彥、富士川游、岸邊福雄の諸氏及び此方面に關係を有する新聞雜誌記者を

委員とし、兒童の娛樂に就きて、之を學術的に研究すべしと云ふ。

廣告

○婦人衞生雜誌第二百八十八號講演欄「米の話」（遠山博士）の中左の通り訂正す。

頁	段	行	誤	正
六	下	一五	幕府の慶安頃	幕府の頃
七	下	二	表入ル	表
七	下	五	補助物即ち副食	補助品
八	上	二	私は東京の或る學校で調べたのである	除ク
九	下	六	第一圖	除ク

○安產の栞　本書は產科に名聲ある醫學士伊庭秀榮先生の著にして、妊娠分娩に關する一般的の知識を普及せんが爲にものせられたるものなり、然れば妊娠、分娩、產褥、授乳に關する解剖、生理、病理の全般に亙りて何人にも解し易く、婦人として必ず心得居らざるべからざる程の事柄を懇切に說明せられ殊に世にありふれたる通俗妊產婦心得書等の如く徒らに妊產婦を心配せしむる如き事を列擧するを避け守るべき事柄、心得べき個條を知りて安んじて婦人の天職を盡すべき事を敎へたり、單に妊產婦のみならず結婚せる男子、姉妹ある兄弟、子女を有せる兩親も必讀すべき好著なり、更に產婆諸姉の參考として得る所多かるべきを信ず、發行所東京市京橋區南紺屋町實業之日本社、全一冊、總振假名、定價九十錢。

○本會入會者

○阿部恒子紹介

●北海道日高國沙流郡慶能舞村　通常會員　富本きぬ子

○事務所申込

●上海ハスケル路六十一號　贊成會員　白木光伸

○藤田さた子紹介

●日本橋區本石町通四ノ一（玉初堂）　通常會員　山田かね子

○轉居

●府下千駄ケ谷穩田一六八　淺田みか子

○訂正

前號轉居の所に麻生たけ子トアルハ麻生勢伊の誤につき訂正す

婦人衛生雜誌（自第二百九十號 至第三百一號）目次

講演

叢談

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

育兒

家庭衛生

雜報

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衞生會役員氏名

總裁　東伏見宮妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
同　岡田德子
同　山本多穗子
同　松平芳子
評議員　石川貞子
同　濱田捨子
同　服部繁子
同　西外子
同　緒方悅子
同　小川孝子
同　片山龜子
同　丹波貞子
同　田村きよ子
同　男爵夫人　南部限子
同　山口貞子
同　古市幸子
同　岸澄子
同　三宅藤子
同　宮下咲子
同　羽田三緒子
同　高木鎳子
同　三浦敬子
同　岩下ゆか子
同　長谷川仲子
同　仁禮壽賀子
同　土肥多越子
同　岡山とし子
同　男爵夫人　加藤鈴子
同　吉武輝枝子
同　高橋孝子
同　鶴原誠子
同　中濱芳子
同　子爵夫人　松井正子
同　伯爵夫人　阿部篤子
同　菊池米子
同　宮本樂子
同　守屋千代子

婦人衞生雜誌代價及廣告料

代價

一冊　定價金貳拾錢　郵税壹錢
三冊（三ヶ月分）　前金郵税共　金四拾五錢
十二冊（一ヶ年分）　前金郵税共　金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行　一行二十三字
壹頁　金　五圓　半頁　金貳圓五拾錢
○特別廣告　壹頁金拾圓　半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵劵ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正二年十二月十七日印刷
大正二年十二月二十日發行

編輯者兼發行者　東京市本郷區根津西須賀町九番地　荘司秋次郎
印刷者　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　今非甚太郎
印刷所　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　杏林舍

發行所　東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地　私立大日本婦人衞生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町　吐鳳堂
同市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鎗屋町　良明堂
同市本郷區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本郷區本富士町　盛春堂
名古屋市榮町六丁目　丸善書店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衞生雜誌第二百八十九號（大正二年）明治四十三年十二月一日（毎月一回）

醫學博士弘田長先生題
醫學博士唐澤光德先生著

育兒の話

◉前編　▼正價金參拾五錢
◉後編續出　▼郵税金貳錢
◉袖珍型本綴美麗
◉全文總振かな附

哺乳兒時期に死亡するもの最も多きは統計表の示す所、其原因多くは育兒の方法其宜しきを得ざるに由るものにして小にして一家庭の悲哀を起し、大にしては我日本帝國の消長に關す育兒の法豈等閑に附すべけんや、弊舖玆に見る所あり今回唐澤博士に乞ひ、本書を公にするの光榮を得たり、本書は言文一致體にして頗る平易なる文字より成り、説く所亦實行的なれば婦女子と雖も了解し易く、醫家も亦本書に由り成書に記載なき治療上の注意を見出し、益を得ること尠からざるべしと信ず

楠田謙藏先生述
鈴木准二先生編（菊判假綴美装）

婦人の衞生

◉全一册
◉木版圖畫十二插入　▼正價金四拾錢
◉全文總ふりかな附　▼郵税金四錢

此書は婦人の月經時・婚嫁時・妊娠時・分娩時・産褥時竝に其固有の疾病時に當りて注意すべき事柄を漏すことなく記述し之に附するに小兒の保育上の注意疾病時の注意を以てしたるものにして婦人は此記述に準じて自愛するときは庶幾くは其健康を保持し且愛兒を適當に保育することを得ん此書に類したる名を負せて世に出すところの書冊に比すれば其所述に於て其優美にして卑猥ならざる點に於て少しく撰を異にするところあるを信ず

發行所　東京市本郷區龍岡町　振替東京四一八番　〔電話下谷二七六一〕　吐鳳堂書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN